新井大田関II遺跡
萩原 III 遺跡

北関東自動車道側道道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

群馬県前橋市は、関東平野の北西に、見事な裾野をひいてそびえる赤城山の南側を市域とし、坂東太郎で知られる利根川が貫流する豊かな水に潤され、自然の風光、四季おりおりの変化に恵まれた山紫水明の県都であります。

古くから北関東の交通の要衝として栄え、律令時代の官道としての東山道が京の都と本州中央部、北関東、奥羽地方を結ぶ道として当遺跡の北 1.5km程を通っていたとされています。

現在は、高速交通時代を迎え、都市間を結ぶ交通網の整備が進められています。本県も高速道路の開通により首都圏や各地方都市との結びつきが広がり、産業・文化をはじめ、多方面に交流が見られます。北関東自動車道も関越自動車道との合流を目的に大系化した道路網の一端を担うものです。

上記建設地域は群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地域にあり、建設によって遺跡の保存が困難なため、工事に先立って新井大田関II遺跡・萩原III遺跡の調査を行いました。

調査では、古墳・平安時代・近世の溝各1条や浅間山降下軽石（1108年）堆積層下より水田の耕土面や畦畔、人や馬の踏跡などを検出することができました。調査範囲が限られているため、完全な水田区画の検出には至りませんでしたが、今後の発掘調査において条里制にかかわる水田域の一資料となれば幸いです。

この調査報告書を刊行するにあたり、関係機関の方々、地元の方々の御理解と御協力を得たことに対し深甚なる感謝を申し上げます。

平成10年3月25日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　中　西　誠　一

例　　言

1　本報告書は、平成９年度北関東自動車道側道道路改良事業に伴う新井大田関Ⅱ遺跡・荻原Ⅲ遺跡発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地

新井大田関Ⅱ遺跡…群馬県前橋市新井町171－１番地外

荻　原　Ⅲ　遺　跡…群馬県前橋市二之宮町2157－１番地外

3　発掘調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　中西誠一）の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社（代表取締役　須永眞弘）が実施した。調査担当および調査期間は以下のとおりである。

新井大田関Ⅱ遺跡　担 当 者　井野誠一・宮内　毅（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）

荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）

調査期間　平成９年12月１日～平成10年２月16日

整理期間　平成10年２月17日～平成10年３月25日

荻原Ⅲ遺跡　担 当 者　井野誠一・宮内　毅（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）

荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）

調査・整理期間　平成10年３月18日～平成10年３月25日

4　調査面積　新井大田関Ⅱ遺跡…814㎡、荻原Ⅲ遺跡…600㎡

5　出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。

6　測量・調査計画　須永眞弘、調査担当…荻野博巳、調査助言…新保一美、測量・実測…板垣宏・勝田貞幸・佐々木智恵子、写真撮影…荻野博巳、安全管理（重機オペレーター）…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。

7　本書は、調査団の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を荻野博巳、編集・校正…須永眞弘・金子正人・新保一美、実測図の整理他…板垣宏・勝田貞幸、遺物実測…佐々木智恵子、遺物洗浄・注記・接合…須永豊・柴崎信江、文章の清書…勝田貞幸、内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。

8　発掘調査に参加した方々（順不同）

石川サワ子　内山恵美子　山崎勘治　内田三郎　青木もと代　三俣光江　後藤初治　関根時太
桑島英彰　中川住一　都丸藤子　内田貞雄　中野鶴市　布川幸子　石田みよ子　今井つる
狩野宮子　小林ひろ　斉藤ミヨ子　高橋あき子　根井よし子　後藤きく江

凡　　例

1　遺跡の略称は次のとおりである。新井大田関Ⅱ遺跡…9Ｅ37、荻原Ⅲ遺跡…9Ｅ41である。

2　遺構名・略称　溝跡…Ｗ、その他の遺構…Ｘ

3　実測図の縮尺　遺跡平面図１/250、水田址１/40,1/80、溝跡１/40,1/80、その他の遺構１/40,1/80、遺物１/３

4　挿入図は、国土地理院発行の２万５千分の１「前橋」を使用した。

5　各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点を照合済。

新井大田関Ⅱ遺跡　基準点　Ａ－０　地点　第Ⅸ系座標値　Ｘ 38900.000m　Ｙ-59160.000m

水準点　BM. 76.500m　等高線５cm　グリッド４m間隔

萩 原 III 遺 跡　基準点　B－0　地点　第IX系座標値　X 38880.000m　Y－59460.000m

水準点　BM. 76.200m　等高線5㎝　グリッド4m間隔

6　土層断面の土色名及び土器類の色調名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局　監修　財団法人　日本色彩研究所色票監修）による。

7　土層注記及び本文中にはAs：浅間山の略号を使用した。

8　断面図の地山部分に斜線を使用した。

9　水田の面積は、平面図による座標面積計算により算出した。

目　　次

序

例　言

凡　例

目　次

I　調査に至る経緯…… 1

II　遺跡の位置と歴史的環境…… 1

1．遺跡の立地…… 1

2．歴史的環境…… 1

III　調査の経過…… 3

1．調査方針…… 3

2．調査経過…… 3

IV　層　　序…… 4

V　新井大田関II遺跡…… 7

1．概　　観…… 7

2．古墳時代…… 7

1 号 溝…… 7

3．平安時代…… 7

(1)　2 号 溝…… 7

(2)　As－B層下の水田耕作土 …… 7

4．近　　世…… 8

3 号 溝…… 8

VI　萩原III遺跡……17

1．概　　観……17

2．As－B軽石下水田址 ……17

(1)　水田の地形……17

(2)　畦畔と水田区画……17

(3)　水田面の状況……17

(4)　水　　口……17

3．その他の遺構……18
Ⅶ　ま と め……20

挿　　図

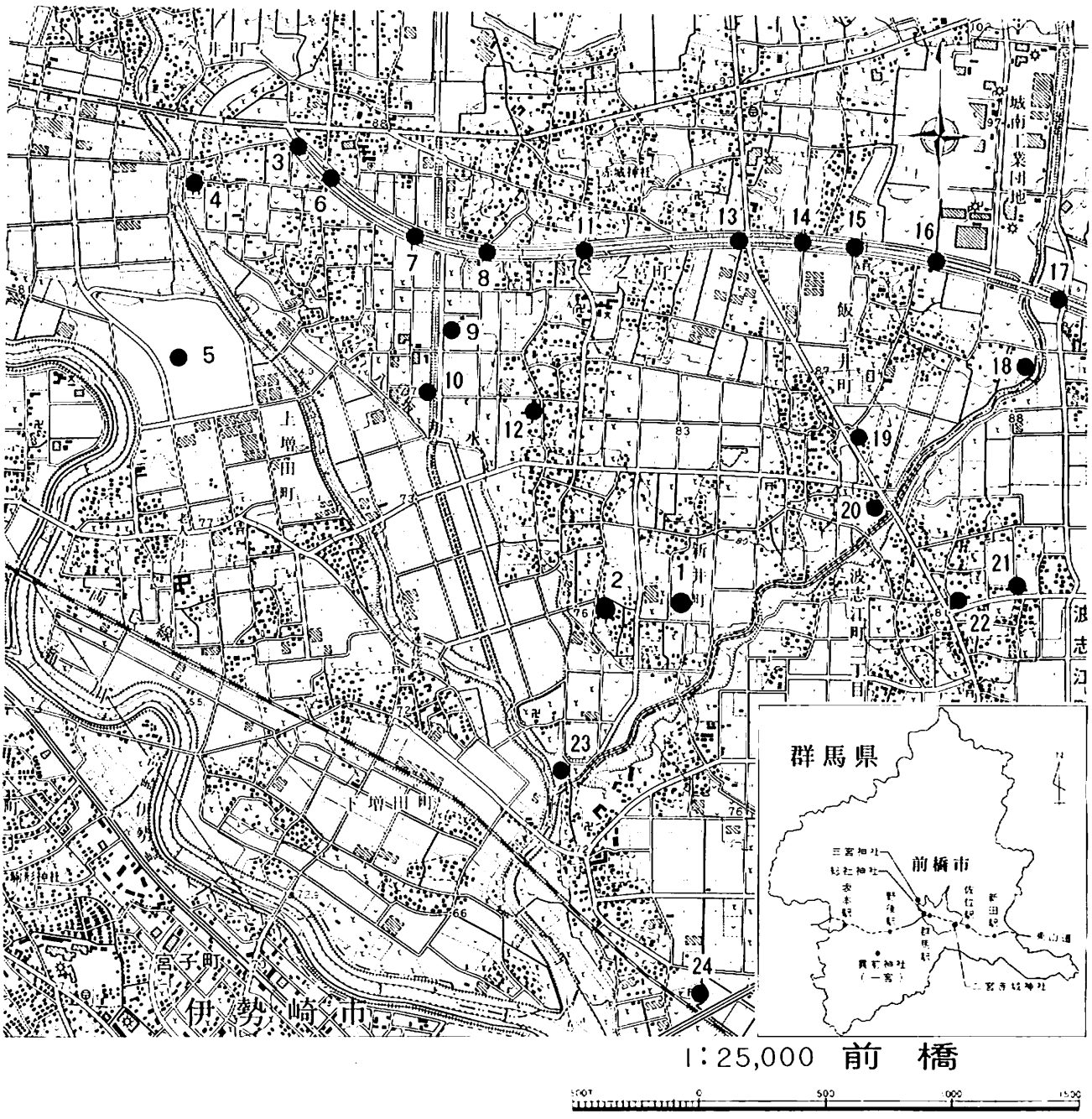
第１図　周辺遺跡図
第２図　新井大田関Ⅱ遺跡・萩原Ⅲ遺跡位置図……２
第３図　発掘調査経過図……３
第４図　基本土層断面図……４
第５図　新井大田関Ⅱ遺跡平面図……９
第６図　低地部平面・断面図……11
第７図　１号溝平面・断面図……13
第８図　D-16グリッド内出土遺物実測図……13
第９図　２・３号溝平面・断面図……14
第10図　萩原Ⅲ遺跡平面図……21
第11図　１～10・13号水田実測図……23
第12図　11～13号水田実測図……24
第13図　調査区西側平面図、X-２出土遺物実測図……25
第14図　X-１・X-２、水田からロームへの移行部断面実測図……26

写 真 図 版

〈新井大田関Ⅱ遺跡〉
図版１　調査区全景、調査前現況、As-B軽石堆積状況、圃場整備工事の機械痕、As-B軽石層精査後耕土面
図版２　低地部全景、低地部南壁セクション、馬の踏跡、人の足跡、耕土面遺物出土状況、W-１全景、W-１遺物出土状況、W-２全景
図版３　W-３全景、遺構確認トレンチ全景・同遺物出土状況・同湧水状況、調査区積雪状況、作業風景、As-B下耕土面出土遺物、W-１出土遺物、D-16グリッド内出土遺物
〈萩原Ⅲ遺跡〉
図版４　調査区全景、調査前現況、基本土層東壁側、As-B軽石下水田址全景
図版５　人の足跡、馬の踏跡痕、水田面遺物出土状況、畦畔検出状況セクション、古い畦畔と思われる痕跡、作業風景、水田域とローム域の移行境セクション
図版６　X-１・２範囲全景、X-２遺物出土状況、X-１完掘状況、X-２完掘状況、遺構確認トレンチ全景X-１・２出土遺物

表

周辺遺跡一覧表
新井大田関Ⅱ遺跡出土遺物観察表……８
畦畔計測表……18
水田址計測表……18
萩原Ⅲ遺跡出土遺物観察表……19



第1図　周辺遺跡図

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	概要	番号	遺跡名	概要
1	新井大田関II遺跡	本書掲載	13	二之宮宮東遺跡	古代住居、小鍛冶・水路・水田、中世の堀・礎石建物他
2	荻原田遺跡	本書掲載	14	飯土井上組遺跡	平安時代の火山灰下面を検出　遺構は検出されず
3	今井道上・道下遺跡	旧石器時代の石器製作跡、平安時代鍛冶跡、中世の道路	15	飯土井中央遺跡	旧石器時代文化層2面　縄文時代陥し穴、古墳時代住居址
4	今井神社古墳	前方後円墳　約69m	16	飯土井二本松遺跡	縄文時代包含層、古墳・奈良・平安時代住居址
5	中原遺跡群	古墳・奈良・平安時代住居址、9世紀の洪水層下水田址	17	波志江今宮遺跡	古墳8基、奈良時代住居址、平安時代水田址
6	二之宮谷地遺跡	古墳・平安時代住居址、平安時代水田址	18	荒砥二之堰遺跡	縄文・古墳時代住居址、方形周溝墓、古墳
7	二之宮洗橋遺跡	古墳・平安時代住居址、平安時代水田址	19	城山城跡	赤石城に近接し、土居の一部残る
8	二之宮千足遺跡	旧石器～近世にかけての複合遺跡、古墳～平安時代水田址	20	赤石城跡	東西に区切る幅5m、深さ1mの堀と柱穴列検出
9	荒砥宮川遺跡	弥生・古墳・奈良・平安時代住居址、平安時代水田址	21	中屋敷跡	南北・東西150mの規模を有し、土居が残存
10	宮原遺跡	古墳時代住居址、古墳	22	岡屋敷跡	堀と土居が残る
11	二之宮宮下西遺跡	旧石器時代の土坑、古墳・平安時代住居址、中世の館址	23	荒砥前原遺跡	縄文・弥生・古墳時代住居址
12	荒砥島原遺跡	弥生・古墳・奈良・平安時代住居址、平安時代水田址	24	お富士山古墳	前方後円墳　約125m

I　調査に至る経緯

北関東自動車道側道道路改良事業の実施に伴い、北関東自動車道対策室より埋蔵文化財についての照会があり前橋市教育委員会文化財保護課では協議・検討を行った。その結果、今回実施する側道調査部分が、平成８～９年にかけて群馬県埋蔵文化財調査事業団（本線）や前橋市埋蔵文化財発掘調査団（側道）が実施した調査区に隣接していることや、遺構が検出されていることなどを踏まえて、当局と協議のうえ、上記側道用地の発掘調査を実施し、記録保存をすることになった。

発掘調査は工事工程の関係上から、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の直営事業として行うことが困難と判断されたため、民間調査機関（スナガ環境測設株式会社）への委託により実施することとし、前橋市埋蔵文化財発掘調査団と民間調査機関及び北関東自動車道対策室の三者での委託契約を締結し、発掘調査を行うこととした。

II　遺跡の位置と歴史的環境

１．遺跡の立地

新井大田関II遺跡・萩原III遺跡は、前橋市の中心市街地より南東方向に、11km程の神沢川右岸側の台地に位置し、川を挟んで南東方向は伊勢崎市と境をなす。北には県中東部に位置し、広大な裾野を広げる那須火山帯の南端に位置する複合成層火山、赤城山があり両遺跡はその南麓裾野にあたる。また南麓地形の詳細を見ると、中腹付近（標高500m前後）で丘陵性台地へ変換が見られ、末端地域（標高100～200m）にかけて低台地化している。低台地は、山麓から流出する中小河川や小支流、湧水などによって開析され複雑な沖積地（谷地形）が形成されている。また基盤層は赤城山起源の泥流層でローム層を原形面とする台地（洪積台地）とロームの二次堆積層である砂壌土性の微高地と沖積地に分けられる。両遺跡共に荒砥川と神沢川に挟まれた舌状台地の中間程で神沢川の右岸縁辺部より約200～400m程内側に入った自然堤防状の微高地縁辺部やローム台地に位置し、標高76.00～76.50m程で東側は沖積地が神沢川まで広がり、水田耕作地となっている。また南側の山麓末端は荒砥川と神沢川が合流し、旧利根川の氾濫源と接している。

２．歴史的環境

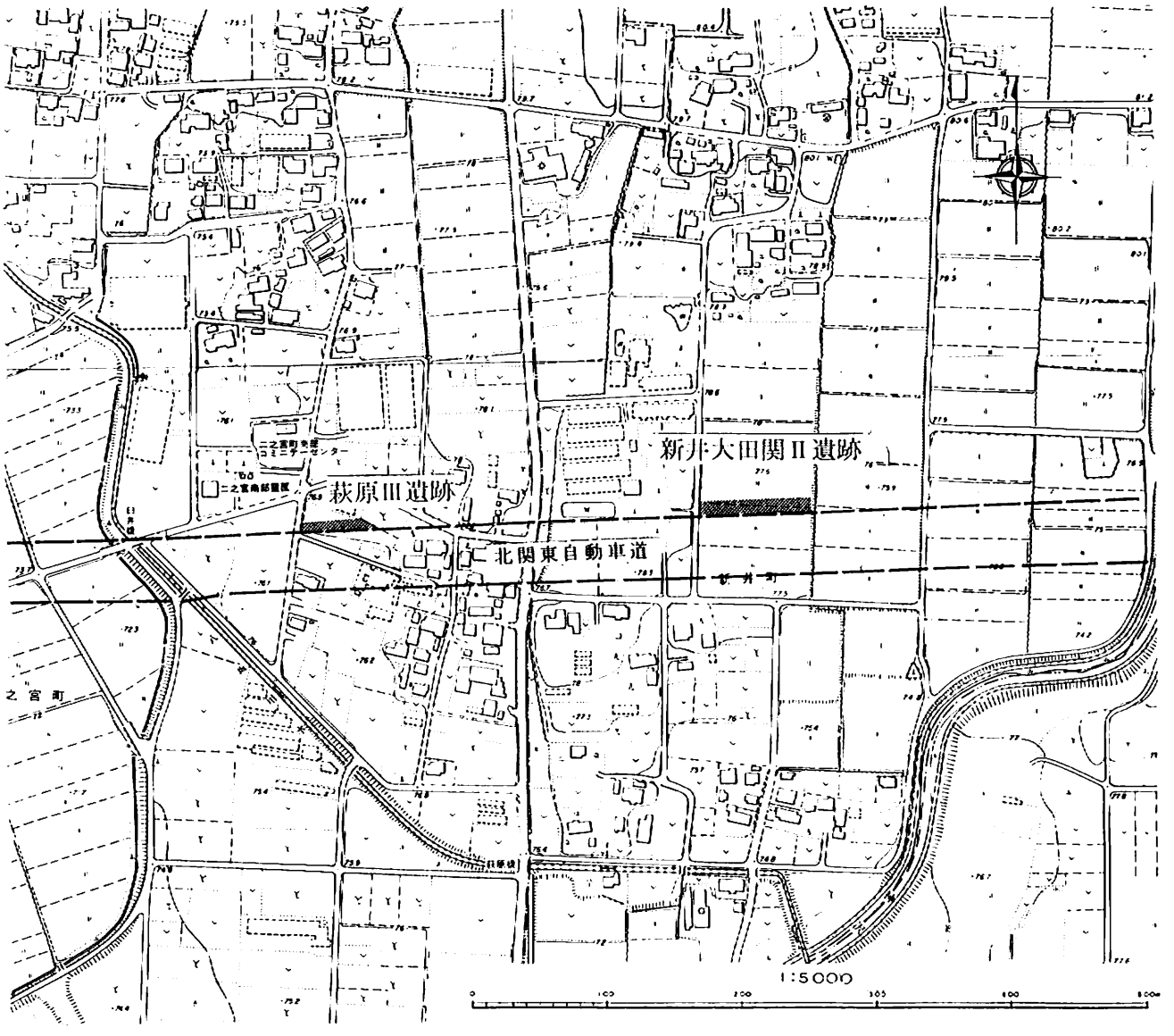
本遺跡の所在する前橋市新井町・二之宮町は、旧荒砥村の南側に該当する地域にある。遺跡の北には二之宮町の赤城神社があり、ここは平安時代に国内の神社の格式を表した「一宮」・「二宮」・「三宮」の「二宮」が所在する土地であり、現在は宮城村の三夜沢赤城神社の里宮とされている。また国道50号線沿いには、東山道（東山道駅路）が東西に走るとされ、坂本駅（松井田町）・野後駅（安中市）・群馬駅（前橋市元総社）・佐位駅（伊勢崎市）・新田駅（新田町）の五駅が存在していたことが10世紀前半編纂の「延喜式」に記されおり、本県の通過ルートとされている。

近年は、上武国道建設や国道50号線など、大規模なインフラストラクチャー（社会基盤整備）が進められている。北関東自動車道建設工事も調査対象となり、先行して埋蔵文化財発掘調査が進められている。

ここで周辺の遺跡を概観すると、上武国道建設に先立って行われた調査では、旧石器時代に今井道上・道下遺跡（３）があり、石器製作跡が検出されている。また縄文時代では、赤城山の山体崩壊土砂堆積からなる微高地上の砂壌土の下層からは、間層を挟んで三面の遺物包含層が確認された飯土井二本松遺跡（16）があり、早期・前期・中期前半の土器が出土している。また古墳時代から平安時代にかけての農耕集落が見られる二之宮谷地遺

跡（6）、二之宮洗橋遺跡（7）など台地上に住居址群、低地に水田址が検出されている。さらに中世の館跡としては、薬研堀の溝で囲まれた一辺が100m四方の主郭部が検出された二之宮宮下西遺跡（11）などがあり、旧石器時代から中世に至るまで遺跡が連綿と続いている。また南方の荒砥川と神沢川に挟まれた舌状台地においては、縄文時代から弥生・古墳・奈良・平安時代まで幅広く点在している。主な遺跡には、縄文時代中期後半の住居址が検出された荒砥前原遺跡（23）があり、加曽利Ｅ３式土器を検出している。弥生時代では竜見町式併行期の住居址検出の荒砥島原遺跡（12）や荒砥宮川遺跡（9）などがある。また古墳、奈良・平安時代住居址や平安時代水田址も検出されており、弥生時代後期から継続する伝統集落と思われる。また荒砥川左岸の微高地上には大型の前方後円墳で５世紀後半に作られた今井神社古墳（4）やＪＲ両毛線沿いには、同じく前方後円墳のお富士山古墳（24）など大型の古墳も見られる。さらに神沢川を挟んだ両岸には、中世の屋敷跡の岡屋敷跡（22）や城跡では赤石城跡（20）や城山城跡（19）など遺跡の年代も幅広く見られる。

また南方は旧利根の川跡と思われ、その左岸一帯は古くから水田址が広がる地域と思われる。本遺跡も水田域の一つであり、二之宮千足遺跡（8）や宮川左岸にある荒砥島原遺跡、荒砥宮川遺跡など集落に面した沖積地には平安時代の水田址が多く検出されている。さらに桃木川と荒砥川に挟まれた広瀬川低地帯上には、818年の地震に起因すると思われる洪水層で埋まった９世紀の水田址が中原遺跡群（5）で広範囲に検出されている。



第２図　新井大田関Ⅱ遺跡・萩原Ⅲ遺跡位置図

III　調査の経過

1．調査方針

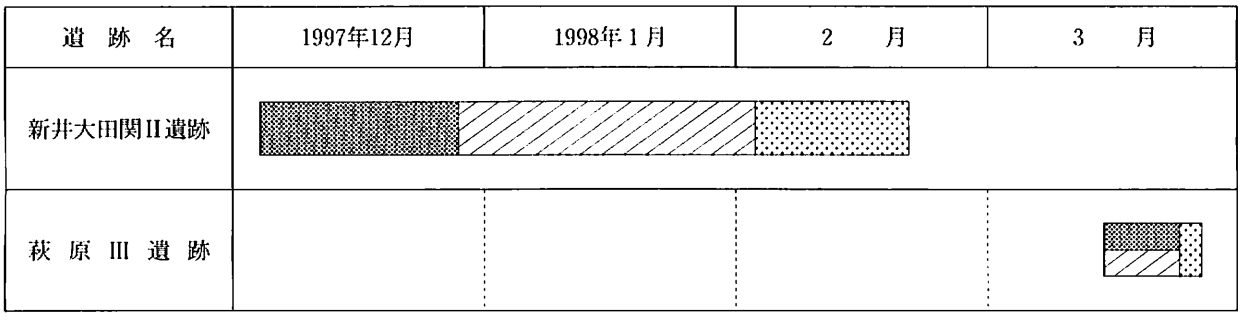
調査区の設定は、公共座標に基づき、東西方向に延びる緯線に直交する経線を算用数字で、南北方向に延びる経線に直交する緯線をアルファベットで付称して、4m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。図面作成は1/20、1/40、1/100、1/200の縮尺を使用し、平板・遺形による細部測量で作図を行なった。遺物は遺構・グリッド単位で層位毎に収納し、遺物分布平面図・遺物台帳に記載し、付番処理して収納した。また遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。

2．調査経過

新井大田関II遺跡は、平成9年12月1日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレの設置を行い、重機による表土掘削と並行して遺構確認面の精査を開始した。調査区内より古墳時代の溝1条と平安時代の溝や水田耕土面、近世の溝も検出した。その後、サブトレンチによる下層の遺構確認調査も行った。また掘削土の置き場への運搬に際して、北関東道本線工事作業等で通行や安全面に問題が生じたため、調査団の了解を得て調査区東側の谷地、水路部分に仮設の橋を設置して、掘削土の運搬や重機及び作業員の通行に使用した。さらに調査区全体に安全対策用のフェンスを張り、囲いをして調査を行った。

萩原III遺跡は、平成10年3月18日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレの設置及び調査範囲の設定を行い、東側から重機で表土掘削を開始しそれと並行して遺構確認面の精査を開始した。調査区内より平安時代の水田址13面と古墳時代の遺物を伴った範囲2か所を検出した。その後サブトレンチを南壁際に入れて、下層の遺構確認調査も行った。また大型重機が表土掘削時や置き場への残土運搬の際、道路横断を余儀なくされたため、車の通行や歩行者などに細心の注意を払い通行した。さらに調査区周囲に安全対策用のフェンスを張った。

第3図　　発掘調査経過図



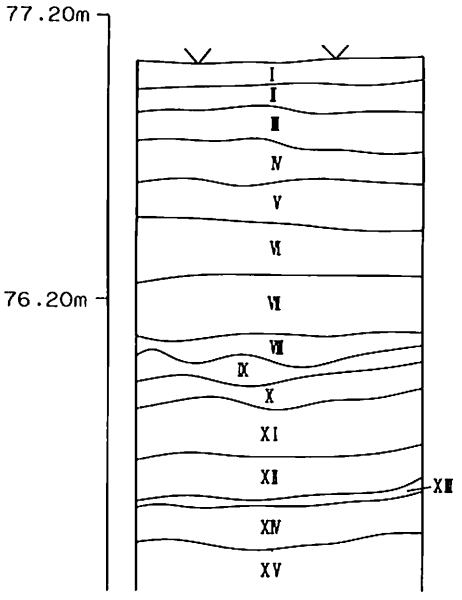
▒ 表土掘削・プラン確認　　▨ 遺構精査・測量　　⊡ 仕上げ・写真撮影・埋戻し

Ⅳ 層　　序

新井大田関Ⅱ遺跡・萩原Ⅲ遺跡は地形・地質上、赤城火山斜面と呼ぶ地形にあり、第四紀洪積世に活動を始めたと考えられている赤城山の火山砕屑物・砕屑岩が斜面の主な構成要素である。この火山斜面上は多数の中小河川が南下していて、その河川による開析によって舌状台地を発達させる。本遺跡も神沢川と宮川・荒砥川などで形成される舌状台地の先端部分に位置し、その地表面は下部ローム以上をのせた洪積台地の原形面とロームの二次堆積である砂壌土性の微高地のほかは、沖積地に分類される。なお新井大田関Ⅱ遺跡内の層序は低地部に入れたサブトレンチ部分の土層断面(第6図参照)、萩原Ⅲ遺跡は調査区東側に入れた深掘りの土層断面(第12図参照)を採用した。

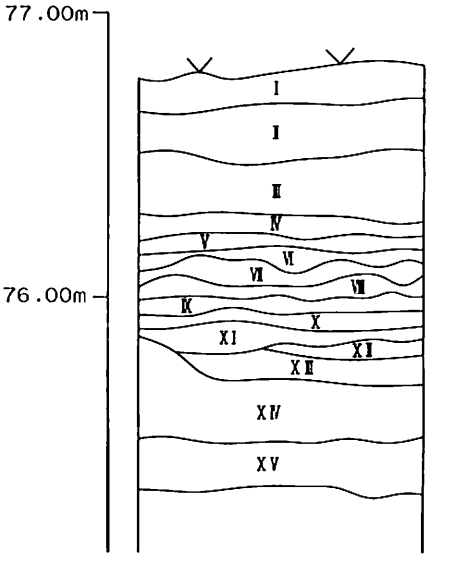
〈新井大田関Ⅱ遺跡〉

Ⅰ　灰褐色土層　現耕作土
Ⅱ　にぶい褐色土層　粘性なく締まりあり　軽石粒を含む
Ⅲ　褐灰色土層　粘性ややあり締まりあり　軽石粒を含む
Ⅳ　灰褐色土層　粘性・締まりあり　白色軽石粒をわずかに含む
Ⅴ　にぶい褐色土層　粘性・締まりあり　白色軽石粒を含む
Ⅵ　灰褐色土層　粘性ややあり締まりあり　白色軽石粒と微砂を含む
Ⅶ　にぶい褐色土層　粘性ややあり締まりあり　白色軽石粒と明黄褐色砂層を含む
Ⅷ　灰黄褐色土層　粘性ややあり締まりありAs-B軽石と明黄褐色砂層を含む
Ⅸ　As-B軽石層　上層にAs-B灰層をブロック状に含む
Ⅹ　黒色粘質土層　水田耕土層
Ⅺ　褐灰色粘質土層　粘性・締まりあり　白色軽石を含む
Ⅻ　褐色粘質土層　粘性・締まりあり　As-B軽石を含む
XIII　As-C軽石層
XIV　黒色粘質土層　橙色の植物斑紋が入る
XV　黒色粘質土層



〈萩原Ⅲ遺跡〉

Ⅰ　灰褐色土層　現耕作土
Ⅱ　灰褐色土層　粘性・締まりややあり　軽石粒を含む
Ⅲ　灰褐色土層　粘性なく締まりややあり　軽石粒と細砂を含む
Ⅳ　にぶい褐色土層
Ⅴ　にぶい褐色砂質土層
Ⅵ　明褐色砂層　鉄分の凝縮が見られ酸化を帯びる
Ⅶ　褐灰色砂質土層
Ⅷ　As-B軽石層　As-B灰層をブロック状に含む
Ⅸ　黒色粘質土層　白色軽石粒をわずかに含む（水田層）
Ⅹ　褐灰色粘質土層　白色軽石粒をわずかに含む
Ⅺ　灰褐色粘質土層　白色軽石粒をわずかに含む
Ⅻ　にぶい褐色粘質土層　As-C軽石粒をわずかに含む
XIII　にぶい褐色粘質土層　ロームとAs-C軽石をわずかに含む
XIV　灰褐色粘質土層　ロームを所々に含む　酸化痕あり
XV　灰褐色粘質土層　酸化痕あり



第4図　基本土層断面図

新井大田関II遺跡

V　新井大田関II遺跡

1．概　観

古墳時代の溝１条、平安時代の水田耕土面とその面に溝１条、動物・人の足跡、低地部、近世の溝１条が検出された。遺物は、古墳時代の溝や平安時代の耕土面、遺構確認サブトレンチ、その他一括も含め、総数59点が検出された。なお、水田耕土面と思われる土層面からは、畦畔などの検出はなかった。

2．古墳時代

１号溝（第５・７図、図版２）

位　置　調査区の中央やや東寄り

規　模　確認長9.5m・上幅150～200cm・下幅60～100cm・深さ17～23cmを測る。

備　考　遺構確認サブトレンチにより検出した。北から南に勾配を持ち、底面には水が流れた痕跡を示す砂の堆積が見られた。また土層断面を見ると東側の半分以上が埋没した状況が見られ、西側には新たに堆積した20cm程の砂層が確認され、時期をかえて使用されていた可能性が考えられる。

遺　物　流れ込みの土師器片を７点検出した。

3．平安時代

(1)　２号溝（第５・９図、図版２）

位　置　調査区中央やや東寄り

規　模　確認長9.4m・上幅30～70cm・下幅15～30cm・深さ５～６cmを測る。

備　考　As-B軽石層の堆積下の水田耕土面に検出した。規模は小さく耕土面に窪み程度の深さで、北から南方向へ伸び、中央部分はカクランにより不明である。また東側には低地部があり、さらに下面には古墳時代の溝も検出され、位置もほぼ同じ所にあたる。

遺　物　検出されなかった。

(2)　As-B層下の水田耕土

調査区の中央付近より東側にかけて、As-B軽石層（厚さ３～10cm）が堆積し、その下面に黒色土層の水田耕土層を検出した。耕土層は、厚さ６～15cm程で低地部はやや厚い。この面は東側で自然堤防状の土層面でなくなり西側は、にぶい黄褐色砂層（洪水堆積層）が堆積する付近でなくなる。また一部は圃場整備工事でAs-B軽石層やその下の黒色土層が削り取られていた。この耕土面には、中央やや東寄りに低地部があり、範囲は北壁側で約11.5m、南壁で約22mを測る。標高は、低地部と台地部では75.80～76.30mで、50cmの比高差があり、耕土面全体では平らな面が少ない。また低地部は、北から南方向に向かって広がりを持ち、この部分や縁辺部にかけて楕円状の窪みが集中して検出された。窪みの幅は大きいもので14～15cm、小さいもので９～10cmを測り、深さは３～９cm程のものが検出された。大きい窪みは、形状から見て馬の蹄跡と思われるが小さいものは不明である。さらに東側の縁辺部にかけて人の足跡が検出された。足跡の径は、大きいもので23～24cm、小さいもので19～20cm程で、歩行方向も西から東、北西から南東方向などが確認できた。また溝１条も西側の縁辺部に検出され、低地部に遺構の集中が見られるが、この耕土面には水田に付随する畦畔の検出はなく、地形も自然堤防状の台地部と低地部を利用した所に耕土層がある状態で、水田耕作に必要な平らな面が少ない。すなわち水田耕作に適する土層であ

るが水田として利用されたのか問題が残る。遺物は流れ込みの須恵器、土師器片が15点検出された。

新井大田関II遺跡出土遺物観察表　　註：法量①口径②底径③器高をcmで表し、（　）は残存値を示す。

番号	出土位置	器形(種)	法　量	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴
1	D－16グリッド	坏(土師)	①(12.0)②(9.0) ③2.3	①軽石・輝石・石英　密　②良　③浅黄橙7.5YR8/4　④2/3 残	平底の底部から中位に段差をもって外反し小さく内彎する口唇部。外面底部ヘラ削り後ナデ、体部ヘラ削り後ナデ。内面ナデ体部内面指頭圧痕。

4．近　世

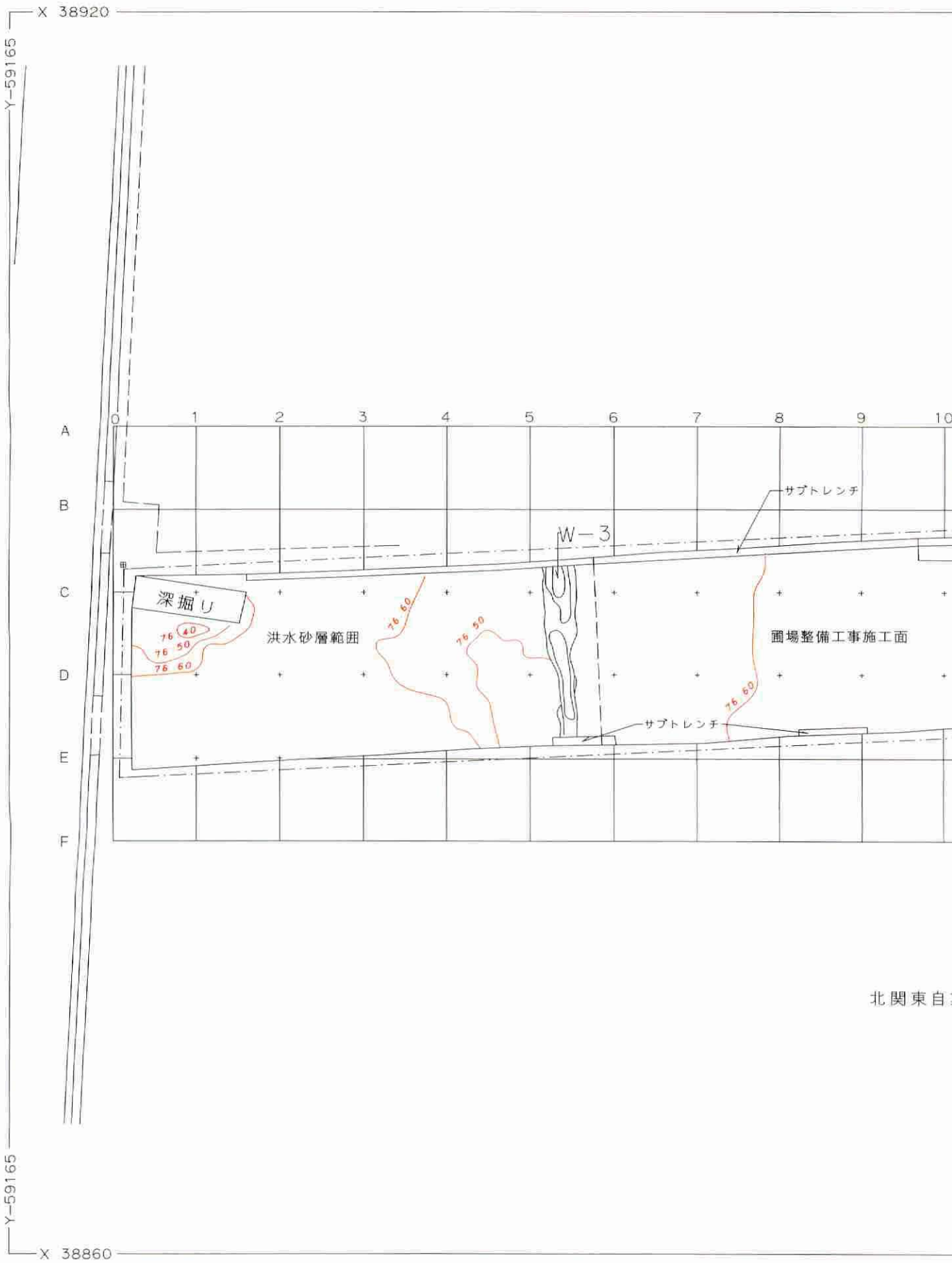
3号溝（第5・9図、図版3）

位　置　調査区の西側

規　模　確認長7.8m・上幅70～160cm・下幅30～70cm・深さ10～31cmを測る。

備　考　断面にはAs-B軽石層の堆積は見られないが、他の土層と比較してAs-B軽石層の堆積面より上面の耕土面からの掘り込みと思われ、下層は水性ローム層まで掘り込んでいる。勾配は南から北方向へ見られ、南壁側は削平され、範囲がはっきりしない。

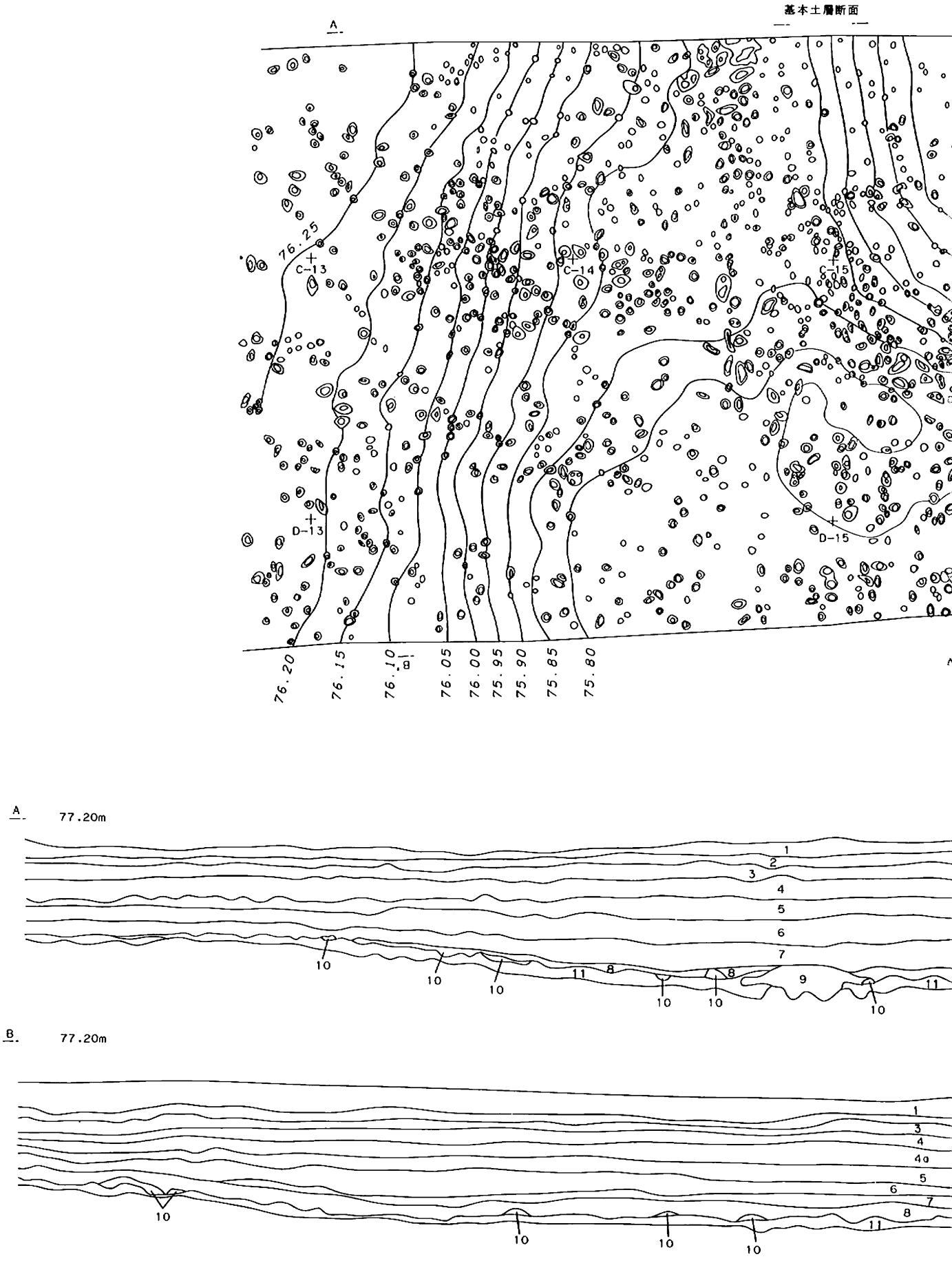
遺　物　検出されなかった。


X 38920
Y-59165
A
B
C
D
E
F
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
サブトレンチ
W－3
深掘り
洪水砂層範囲
76 60
76 50
76 40
76 50
76 60
76 60
76 50
76 60
圃場整備工事施工面
サブトレンチ
北関東自
Y-59165
X 38860

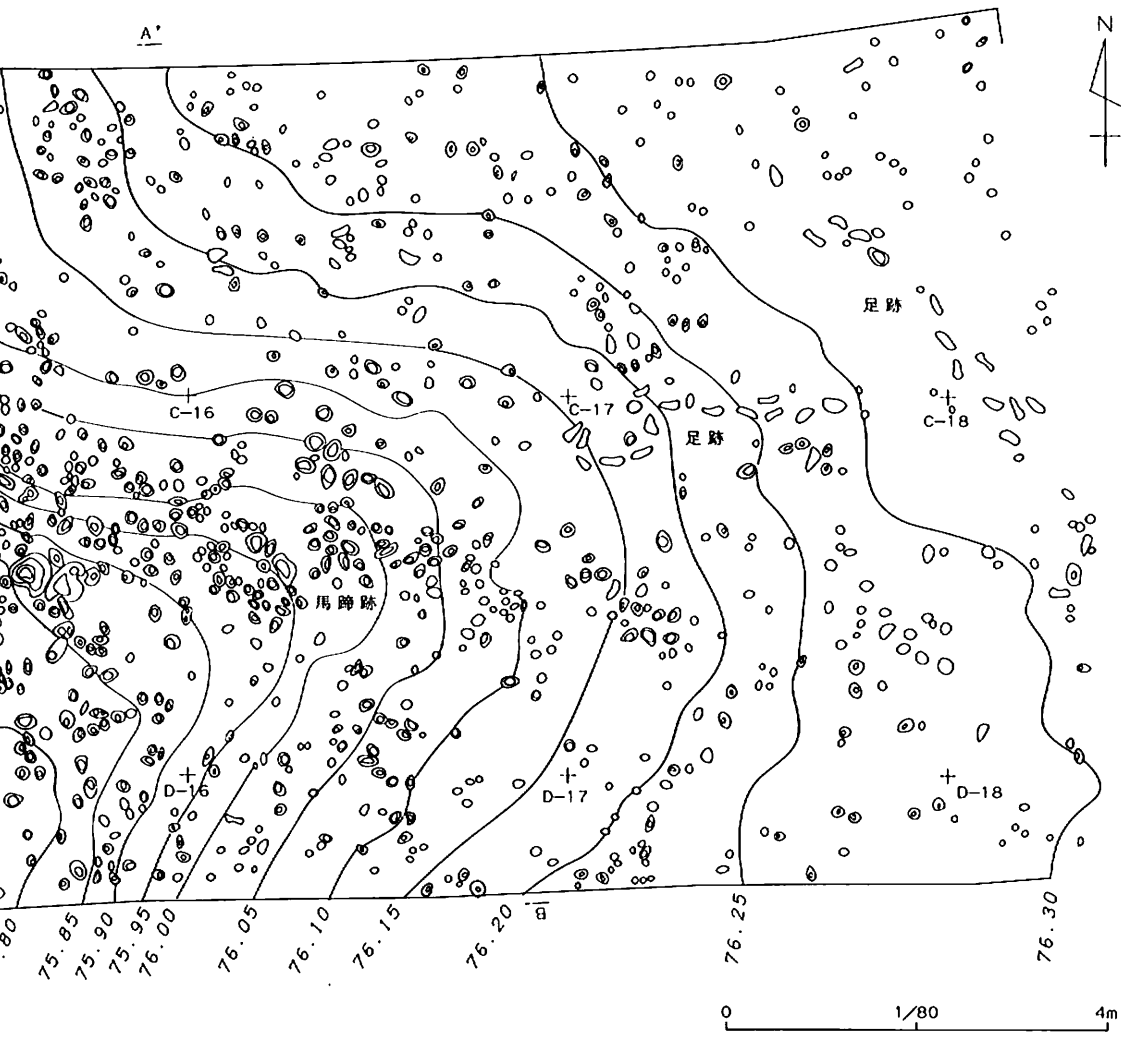
第5図　新井大田

動車道本線部分

関II遺跡平面図

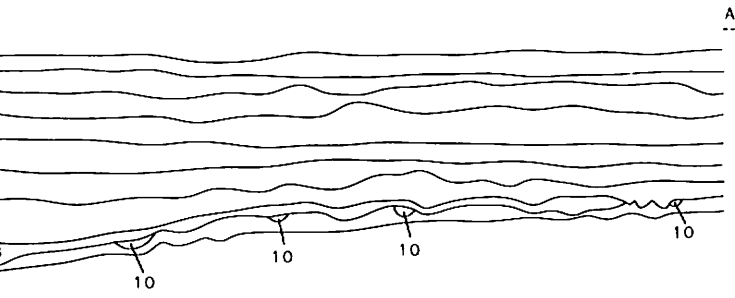

基本土層断面
A
B
76.25
C-13
C-14
C-15
D-13
D-15
76.20
76.15
76.10
76.05
76.00
75.95
75.90
75.85
75.80
A
77.20m
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
B
77.20m
1
3
4
4a
5
6
7
8
10
11

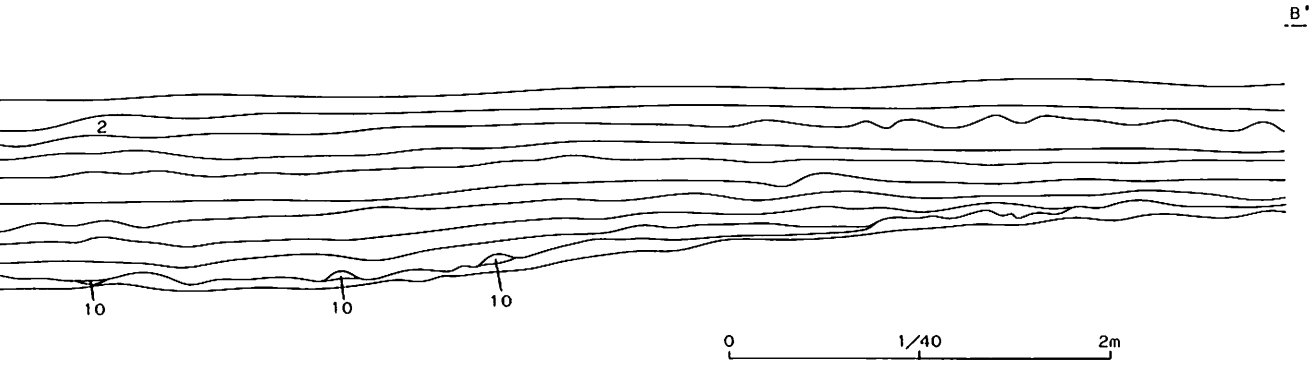
第6図　低地



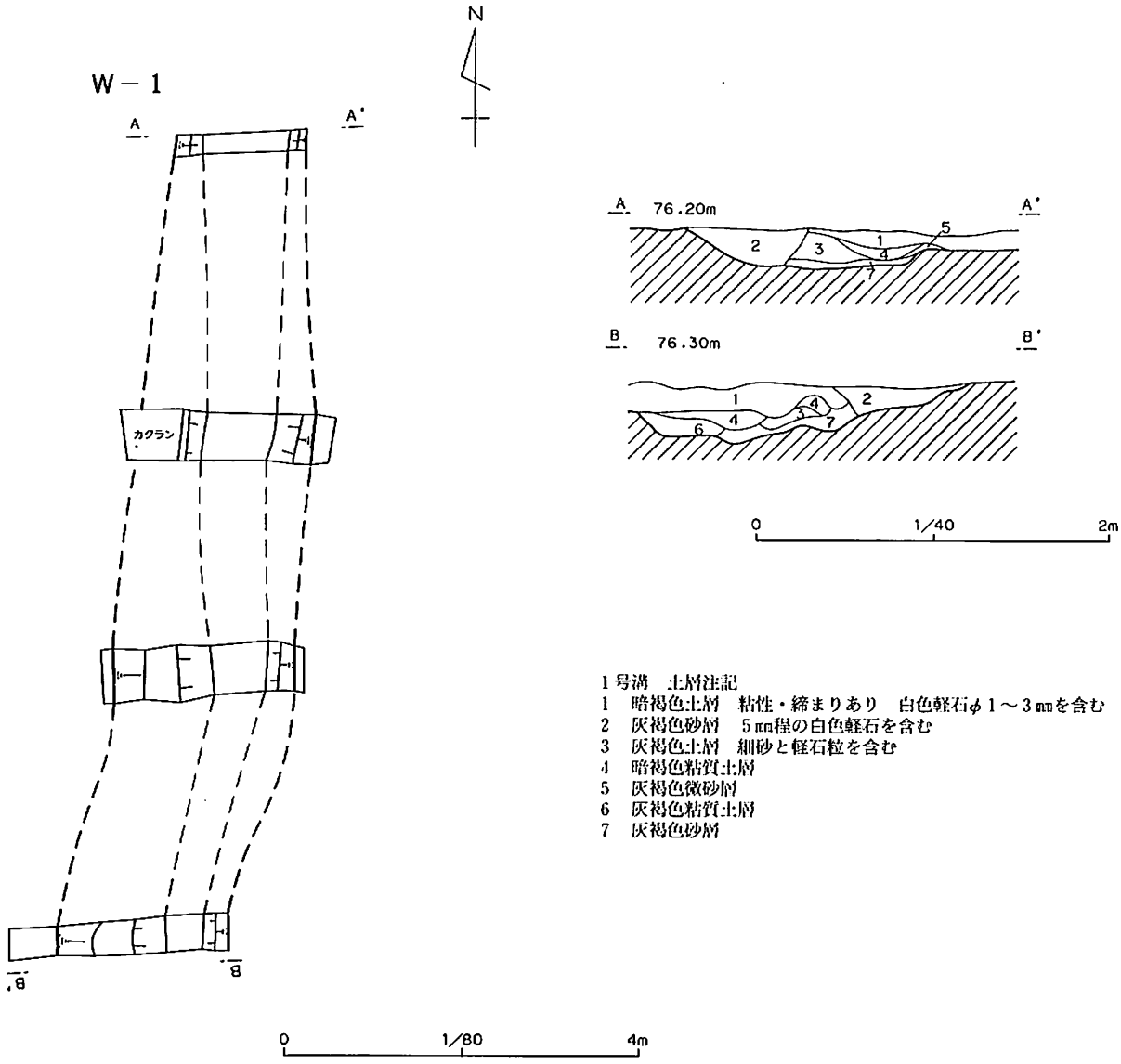
低地部　土層注記

1　灰褐色土層　現耕作土
2　にぶい褐色土層　粘性なく・締まりあり　軽石粒を含む
3　褐灰色土層　粘性ややあり・締まりあり　軽石粒φ1～3mmを含む
4　灰褐色土層　粘性・締まりあり　白色軽石をわずかに含む
4a　灰褐色土層　4層より白色軽石粒を多く含む
5　にぶい褐色土層　粘性・締まりあり　白色軽石を含む
6　灰褐色土層　粘性・締まりあり　白色軽石粒と微砂を含む
7　にぶい褐色土層　粘性ややあり・締まりあり　白色軽石粒と明黄褐色砂層を含む
8　灰黄褐色土層　粘性ややあり・締まりあり As-B軽石と明黄褐色砂層を含む
9　暗赤褐色砂層　As-B軽石を含み酸化を帯びる
10　As-B 灰層
11　As-B 軽石層



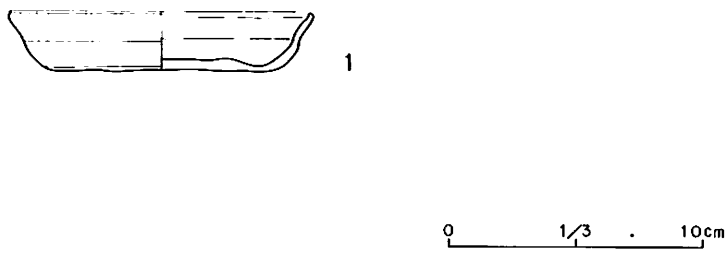


部平面・断面図

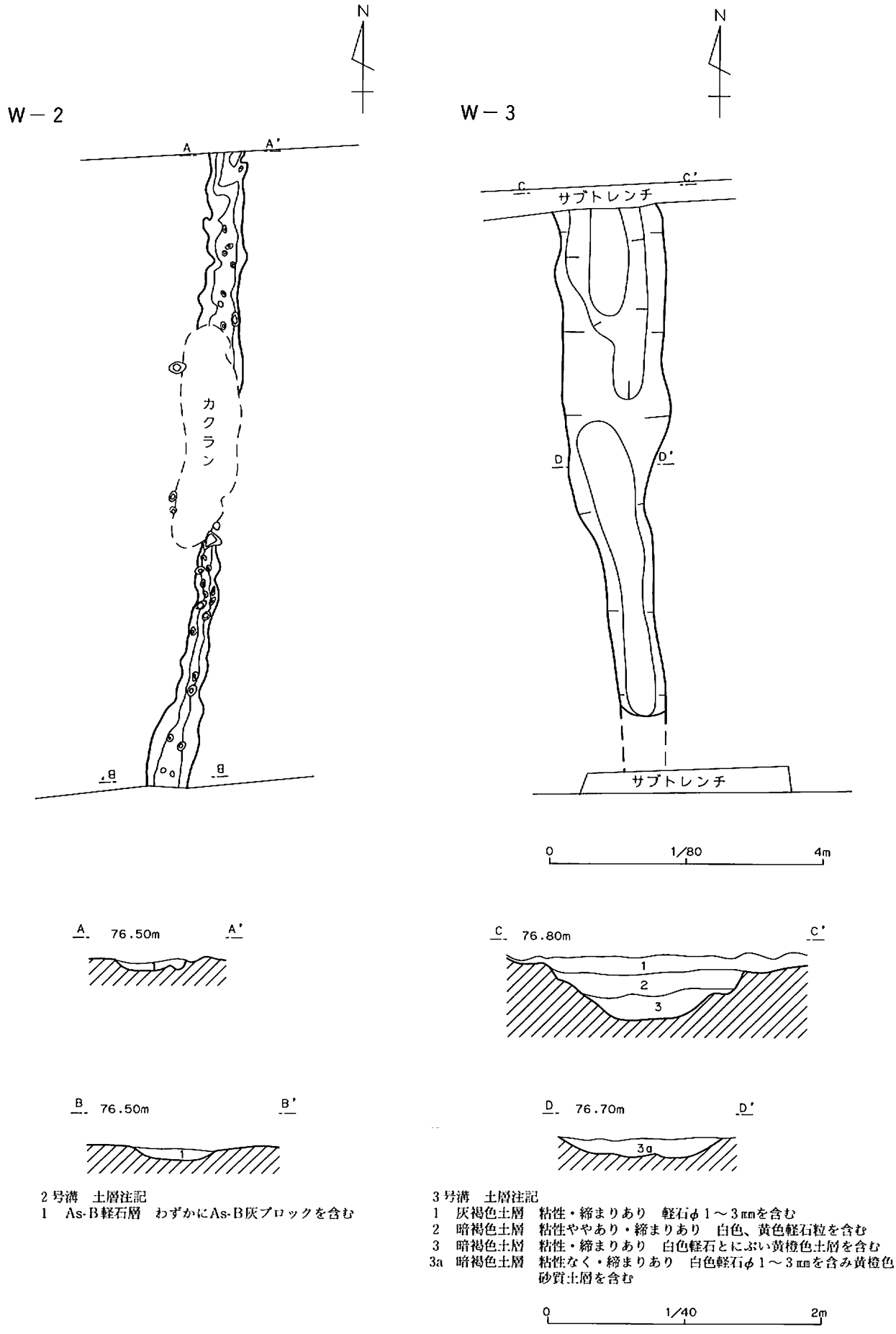


1号溝　土層注記
1　暗褐色土層　粘性・締まりあり　白色軽石φ1～3㎜を含む
2　灰褐色砂層　5㎜程の白色軽石を含む
3　灰褐色土層　細砂と軽石粒を含む
4　暗褐色粘質土層
5　灰褐色微砂層
6　灰褐色粘質土層
7　灰褐色砂層

第7図　1号溝平面・断面図



第8図　D-16グリッド内出土遺物実測図



2号溝　土層注記
1　As-B軽石層　わずかにAs-B灰ブロックを含む

3号溝　土層注記
1　灰褐色土層　粘性・締まりあり　軽石φ1～3㎜を含む
2　暗褐色土層　粘性ややあり・締まりあり　白色、黄色軽石粒を含む
3　暗褐色土層　粘性・締まりあり　白色軽石とにぶい黄橙色土層を含む
3a　暗褐色土層　粘性なく・締まりあり　白色軽石φ1～3㎜を含み黄橙色砂質土層を含む

第9図　2・3号溝平面・断面図

萩原 III 遺跡

Ⅵ　萩原Ⅲ遺跡

1．概　　観

調査区の東側部分約70％の割合を占めて、As-B軽石下で平安時代の水田址を検出している。水田は２～６cm程の高まりを持つ畦畔で区画され、13面を検出した。この面には馬蹄跡や人の足跡と思われる窪みが検出された。また水田面からは小破片ではあるが須恵器、土師器片を６点検出している。残る西側部分約30％の調査地は約50cmの耕作土下がローム層になっている。その面の西側寄りに焼土分布範囲（X-１）と遺物分布範囲（X-２）が見られた。そこからは古墳時代後期と思われる小型の甕片などが検出されたが、後世のカクランが入り、遺構検出には至らなかった。最後に下面の遺構確認のため調査区南壁側にサブトレンチを入れて調査を行ったが、遺構は検出されなかった。

2．As-B軽石下水田址（第10・11・12図、図版４・５）

調査区の中央付近から東側にかけてAs-B軽石の堆積５～10cmの厚さで検出され、その直下より水田址が検出された。

(1)　水田の地形

Ａ５～Ｃ３グリッド・Ａ12～Ｃ16グリッドにかけて水田址が部分的な検出も含めて13面検出された。４号水田の標高76.05mを最高点に、１号水田の標高75.95mを最低点としての比高差を利用した水田と思われ、４号～１号水田へかけて勾配が見られる。

(2)　畦畔と水田区画

畦畔は部分的に検出したものも含めて大きく分けると９本検出した。方向は、東西方向でN－45°～72°－W範囲で、南北方向はN－20°～39°－Eの範囲が見られ、座標軸の東－西、南－北とは走行がずれている。規模は、上端幅17～67cm、下端幅39～116cm、高さ２～６cmまでのものがある。断面の形状は、全体につぶれた状態で検出されたため、扁平な台形状を呈する。また区画は、西側が短い曲線の畦畔で作られ、水田の大きさに規則性がない。東側は１枚の区画が水田域の半分程を占め、大きい区画となっている。

(3)　水田面の状況

水田面は、１区画の小さいものが多く見られ、ほぼ平坦で凹凸が少ない。その面には人の足跡や動物の蹄跡(形状より馬と思われる）などが数か所検出された。大きさは、人のもので19～25cm、深さ２～８cmを測る。動物のものははっきりした形状があまり見られず、測定できたものは径15～16cmを測る。遺物は流れ込みと思われる須恵器・土師器片などが６点検出された。また水田面には他の面より窪みが少なく、やや盛り上がり細長く筋状に見られる部分があり、その状況は他の区画にも数か所確認でき、部分的に線でつなぐと畦畔のように見ることもでき、古い畦畔の痕跡とも考えられたが、いずれもわずかな痕跡をたどったのみの推定線で、土層断面にもその高まりを確認することは難しく、用途・性格を特定するには至らなかった。

(4)　水　　口

調査で検出した畦畔には、水口らしき特別な窪み跡は検出されなかったが、田面と大差のない畦畔は水面下に没していたと考えられることから、水田に水を引く方法として、標高の高い水田から低い水田へ畦畔をオーバーフローさせる、かけ流しの方法が考えられた。また水利は、付近に宮川や神沢川などの河川からの取水溝等の検出はなく、上流域から灌漑用水として取水している可能性は残している。

畦畔計測表　　N・S・E・Wは方位を示す

畦畔番号	グリッド	上端幅 cm	下端幅 cm	畦の高さcm			
				N	S	E	W
①	B-7	23	39	2	6	—	—
②	A・B-7	32	60	5	6	—	—
③	B-7	32	53	—	—	5	6
④	B-7・8	67	116	4	4	—	—
⑤	A-10	24	50	6	4	—	—
⑥	B-8・9	34	70	4	3	—	—
⑦	C-10	30	54	4	6	—	—
⑧	A-10・11	18	40	—	—	3	4
⑨	A-13	28	60	6	4	—	—
⑩	A-14	17	40	—	—	3	4
⑪	B-14	32	63	2	3	—	—
⑫	B-8	23	50	—	—	5	5
⑬	B-9・10	25	50	—	—	2	5
⑭	C-11	28	55	—	—	2	4
⑮	B-7	30	57	—	—	2	3
⑯	B-7・8	17	50	—	—	3	2
⑰	C-9	22	52	—	—	2	4

水田址計測表　　(　)は検出長・検出面積を示す

水田番号	面積m²	北畦m	南畦m	東畦m	西畦m
1	(55.22)	(10.0)	—	—	—
2	13.36	2.6	4.3	(4.2)	(5.9)
3	(14.50)	(3.3)	—	(5.7)	4.3
4	(31.01)	7.7	(8.5)	—	(0.6)
5	(8.12)	(5.0)	—	(5.8)	2.5
6	(9.31)	(4.5)	(5.4)	—	—
7	27.11	5.0	6.2	7.7	4.9
8	(16.18)	(2.6)	—	(4.4)	6.2
9	12.52	(4.3)	(5.0)	(5.0)	2.5
10	(5.44)	—	—	(2.6)	(5.3)
11	(6.33)	(1.6)	(7.8)	—	—
12	(9.23)	—	(7.4)	(1.6)	—
13	(117.72)	—	(6.8)	(4.7)	(19.3)

（2号水田の形状は台形、7号は方形、9号は不定形を呈す。他は部分的な検出のため形状は不明。）

3．その他の遺構

X-1（第10・13・14図、図版6）

位　置　調査区の西側

方　向　長軸方向　N—35°—E

形　状　南西から北東に長い長方形を呈す。

規　模　径3.8×1.2m、確認面からの深さ20～38cmを測る。

備　考　確認面で黒褐色土層に焼土と遺物が含まれた範囲が確認され、住居址の可能性が考えられたが、遺構確認が進むにしたがって焼土部分は確認面のみで覆土中にはあまり含まれず、遺物片だけが検出された。また確認面でみられた柱穴と思われる穴も調査が進むにつれて付近に残る桑の抜根跡であることがわかった。さらに完掘した状態が細長い土坑状になり、底面に小穴が多く検出されたが、これも新しい土層で埋まっていることや付近に見られる耕作跡（ウド・ゴボウ栽培跡）と推測され、住居址等の遺構にはならなかった。

遺　物　確認面や覆土中より須恵器片、土師器の甕片や坏片など121点を検出した。形状が残るものはいずれも6世紀前半のものと思われる。

X-2（第10・13・14図、図版6）

位　置　調査区の西側

方　向　長軸方向　N—43°—E

形　状　南西から北東に長い楕円形を呈す。

規　模　径1.8m、幅1.0～1.3m、確認面からの深さ12～36cmを測る。

備　考　確認面で遺物の分布が見られ、その範囲にベルトを設定し遺構確認を行ったところ、中央部分に楕円状の穴が見られ、南西と北東部分は浅く現代の耕作土痕が入ってカクランされていた。また埋土も砂礫の堆積がラミナ状に見られる部分があり、底部は砂層中の鉄分の凝縮によって赤褐色に変化して堅くなっていた。砂礫の堆積状況や形状から流水によってできた穴か、倒木跡などが考えられたが、明確にすることはできなかった。

遺　物　確認面や砂礫層上に6世紀前半の土師器小型甕片（№2・3）・坏片（№4）や須恵器片など28点を検出した。

萩原Ⅲ遺跡出土遺物観察表　　註：法量①口径②胴部最大径③器高をcmで表し、（　）は残存値、［　］は推定値を示す。

番号	出土位置	器形(種)	法　量	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴
2	X-2 覆土	小型甕 (土師)	①(12.6)②[23.8]③(6.0)	①軽石・輝石　稠密　②良好　③橙5YR6/6　④口～頸部1/3残	丸く彎曲した肩部からやや外傾する頸部を持ち、口縁部でさらに外彎して開く。外面口縁部横位のヘラナデ、頸～肩部にかけて2層の粘土を施し指ナデ補強。内面口～頸部横位のヘラナデ
3	X-2 覆土	小型甕 (土師)	①(10.6)②[15.2]③(7.0)	①軽石・輝石・石英　稠密　②良好　③橙5YR6/8　④口～肩部1/3残	緩やかに彎曲した肩部から頸部で直に立ち上がり口縁部でやや外反する。内側への折り返し口縁。内外面口～頸部横位のヘラナデ。外面肩～胴部にかけてヘラ調整。内面肩部斜位のヘラナデ。
4	X-2 一括	坏(土師)	①(11.8)③(4.5)	①軽石・輝石　密　②良好　③橙5YR6/8　④口～体部1/5残	丸底と思われ、体部は口辺部との境で稜を持つ。口辺部はやや内彎して口縁部でわずかに外反する。外面口縁部横位のヘラナデ。底部ヘラ削り。内面口～体部横位のヘラナデ。

Ⅶ まとめ

前橋市の南東部に位置する新井町に新井大田関Ⅱ遺跡、二之宮町に萩原Ⅲ遺跡がある。その距離は、250m程で神沢川と宮川・荒砥川などの侵食によって形成された舌状台地にある。両遺跡ともAs-B軽石下に水田耕土面や水田址を検出している。

新井大田関Ⅱ遺跡については、遺跡東側の一段低い（約1.3m）部分が神沢川の右岸となっている。遺跡からは黒色粘質土の耕土を確認したが、畦畔は検出されていない。耕土面は低地部が半分程を占めている。この面から人や馬の踏跡が検出されているが平坦な面が小さく、この部分が水田址かは定かではない。この低地部は北側から南側へ広がりをもって続くと思われることから、南下するに従って平成８・９年度の群馬県埋蔵文化財調査事業団の調査で検出された、北から南への傾斜を持つ幅15m程の開析谷の存在とつながり、さらに水田耕土が確認された９世紀代の水田址や、東西に走る畦が確認された12世紀代の水田址などに続くものと思われる。

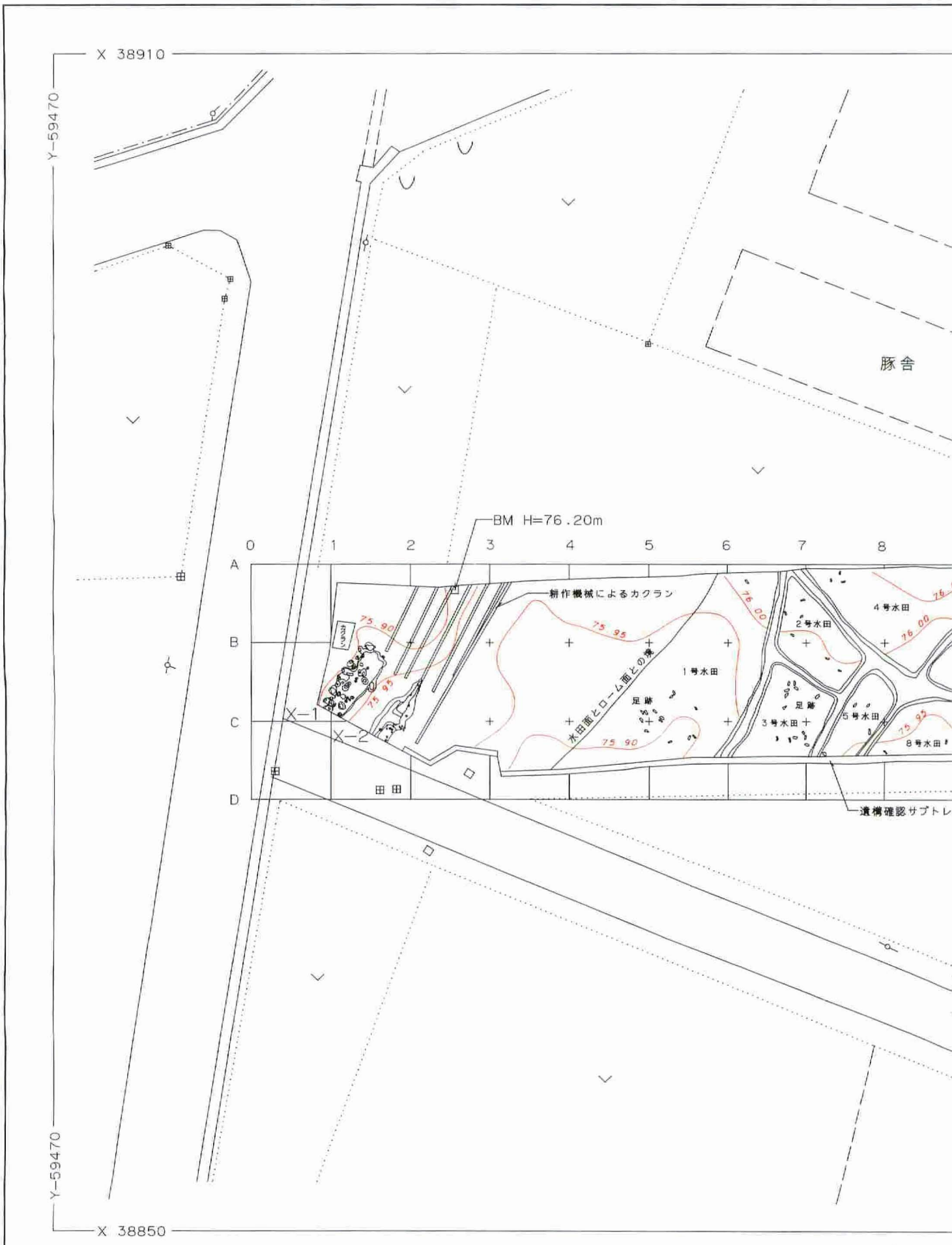
調査区の中央付近から西側にかけて昭和51年から55年にかけての圃場整備工事で削平され、As-B軽石層や黒色土の耕土が確認できなくなり、遺構は近世の溝が検出されている他、調査区中央から低地部の西側の縁辺部に沿って平安時代・古墳時代の溝が検出されている。いずれも南北に走行を持ち、上記事業団で検出した溝と同じく台地縁辺部に位置することから、縁辺部を通る溝で、低地部や下流の水田に導水する役目をはたしたものと思われる。

萩原Ⅲ遺跡は、調査区の東側にAs-B軽石下水田址が検出され、西側は水田の跡がなくなりローム面へ移行している。その範囲には、古墳時代後期の遺物片や焼土分布などが見られ、住居域であったことがうかがえるが、畑地耕作などで削平され住居址の検出はなかった。

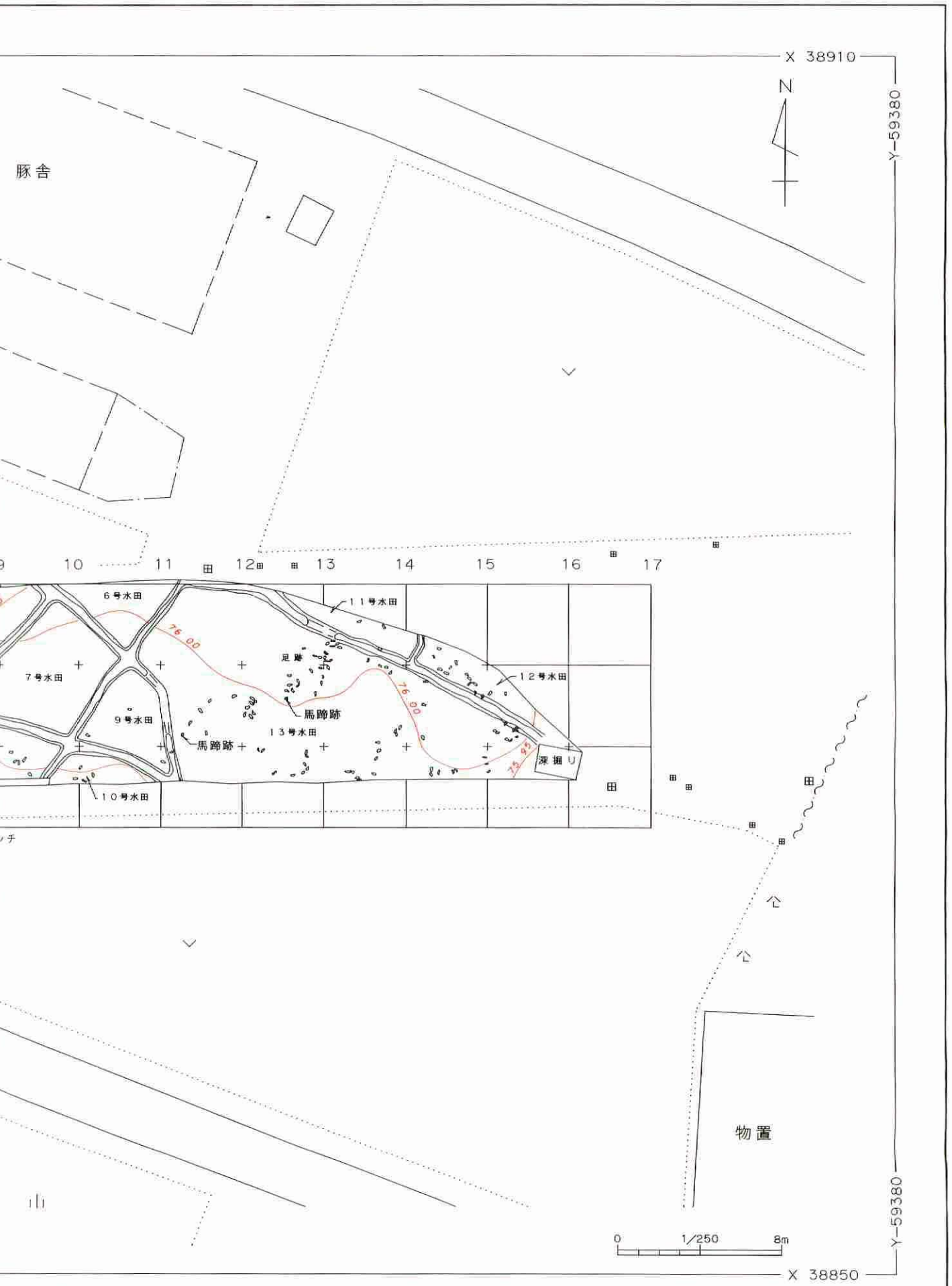
両遺跡とも侵食から逃れた狭い微高地部分に立地しており、周辺の微高地部分に見られる荒砥島原遺跡や荒砥宮川遺跡など弥生時代後期から継続する伝統集落と同じ台地上の南に位置することから、本遺跡周辺に同時期の集落が存在していた可能性が考えられる。また調査区で検出された水田址も時期と共に低地部から微高地へ耕地拡大が進められ、開田が行われていたことがうかがわれる。

参考文献

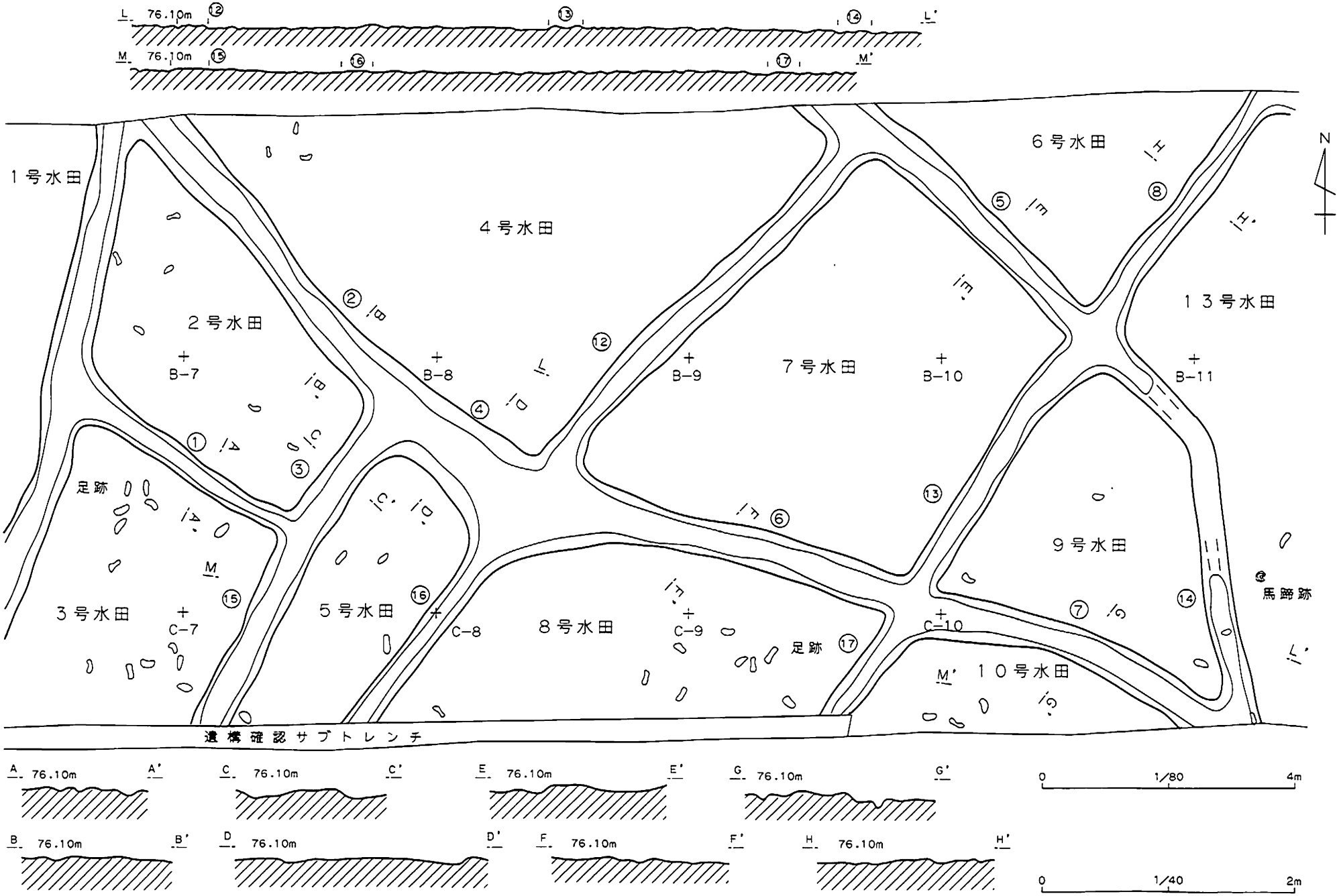
内堀遺跡群Ⅳ　1991　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
荒砥青柳Ⅱ遺跡　1995　〃
中原遺跡群Ⅳ　1995　〃
中原遺跡群Ⅲ・Ⅴ・Ⅶ　1996　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
宮地中田遺跡　1997　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
六供下堂木Ⅱ遺跡　1997　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
荒砥前原遺跡・赤石城址　1985　群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
下触牛伏遺跡　1985　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
二之宮千足遺跡　1992　建設省　群馬県教育委員会　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
地域をつなぐ未来へつなぐ上武国道埋蔵文化財発掘22年の軌跡
群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
大八木水田遺跡　1979　高崎市教育委員会
芦田貝戸遺跡Ⅱ　1980　高崎市教育委員会
日高遺跡　1982　報告書第５集　群馬県教育委員会　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
同道遺跡　1983　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団


X 38910
Y-59470
豚舎
BM H=76.20m
0
1
2
3
4
5
6
7
8
A
B
C
D
耕作機械によるカクラン
75.90
75.95
76.00
1号水田
2号水田
3号水田
4号水田
5号水田
8号水田
足跡
水田面とローム面との境
X-1
X-2
田田
遺構確認サブトレ
Y-59470
X 38850

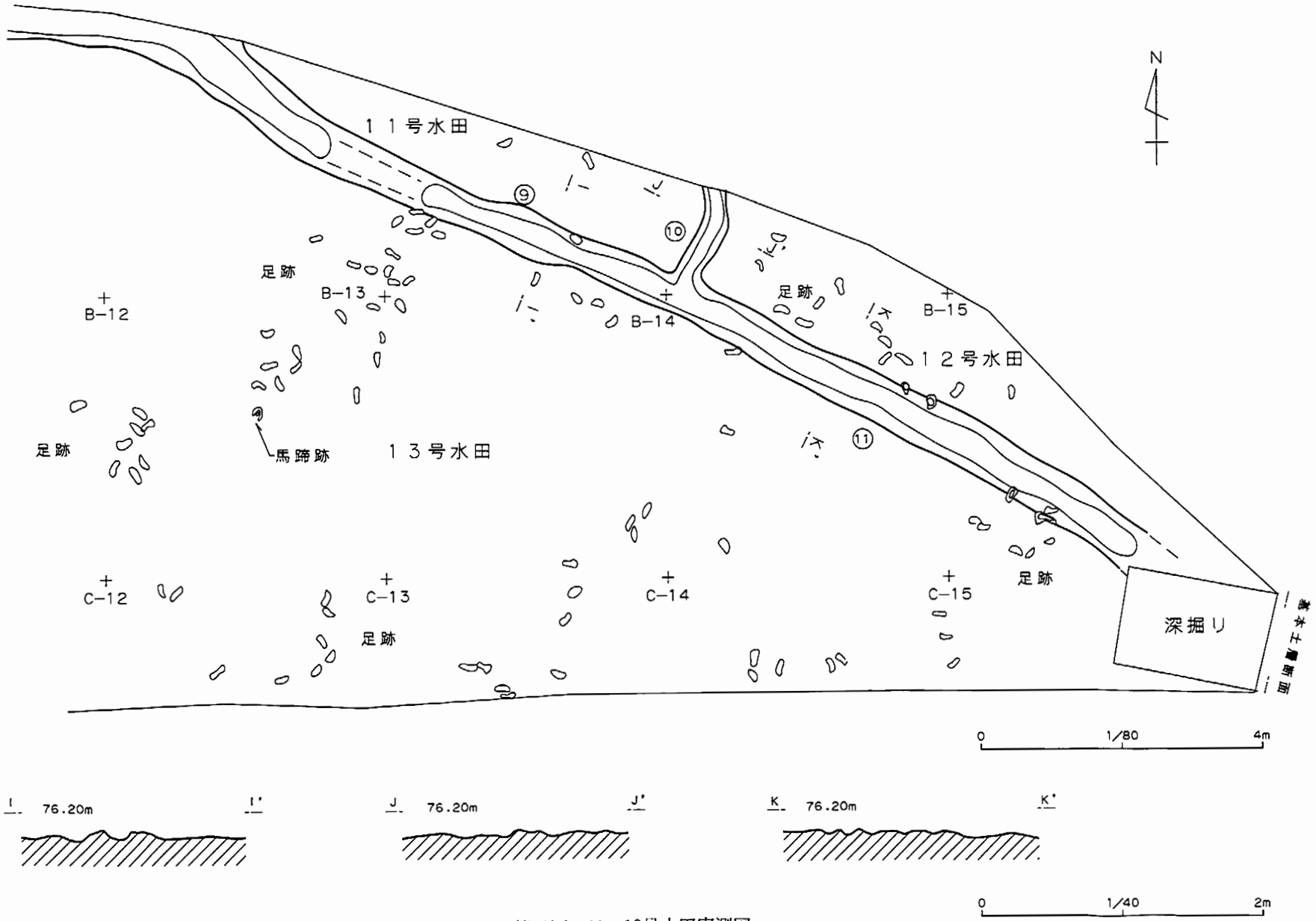
第10図　萩原II


X 38910
Y-59380
N
豚舎
9
10
11
12
13
14
15
16
17
6号水田
7号水田
9号水田
10号水田
11号水田
12号水田
13号水田
足跡
馬蹄跡
馬蹄跡
76.00
76.00
76.45
深掘り
物置
0
1/250
8m
X 38850
Y-59380

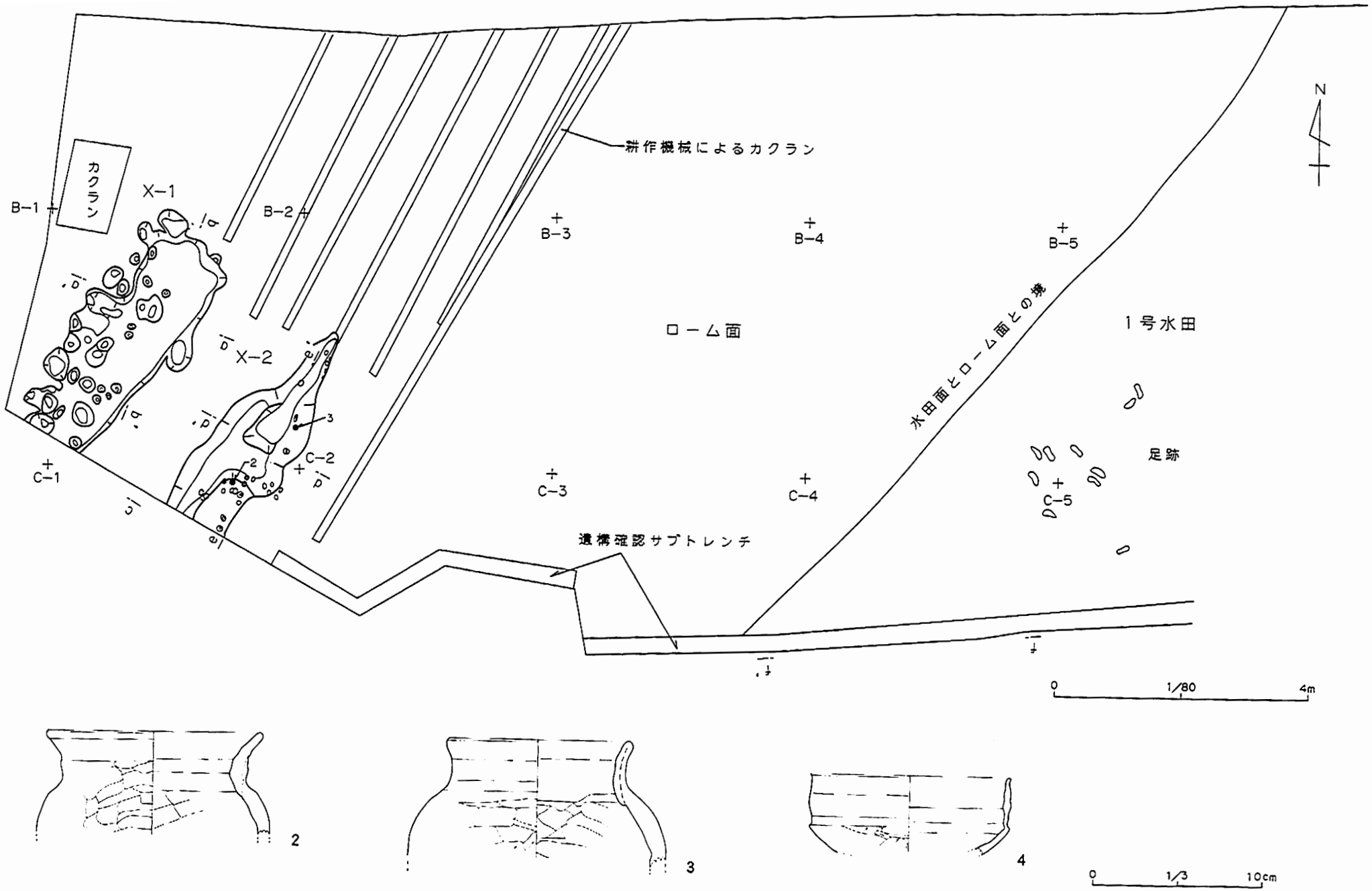
遺跡平面図



第11図　1～10・13号水田実測図

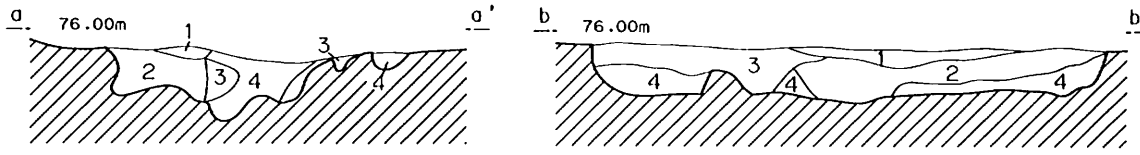


第12図　11～13号水田実測図

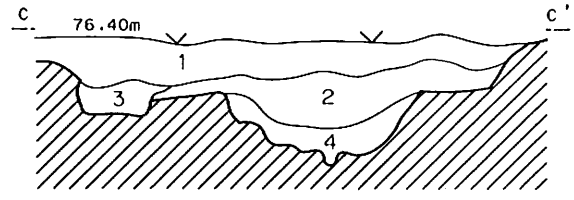


第13図　調査区西側平面図、X-2出土遺物実測図

X－1

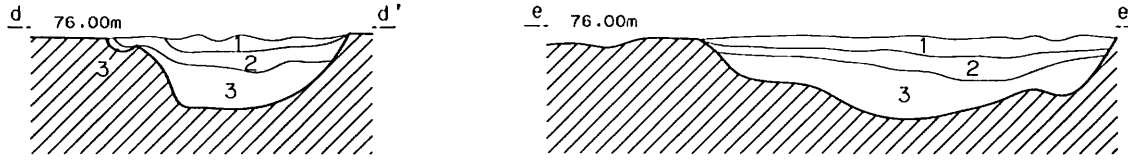


X－1　土層注記
1　黒褐色土層　粘性・締まりややあり　焼土粒と白色軽石粒を含む
2　暗褐色土層　粘性・締まりややあり　焼土粒をわずかに含み軽石粒を含む
3　にぶい黄褐色土層　粘性・締まりなく　ソフトロームを含む
4　にぶい黄褐色土層　ソフトロームを含む

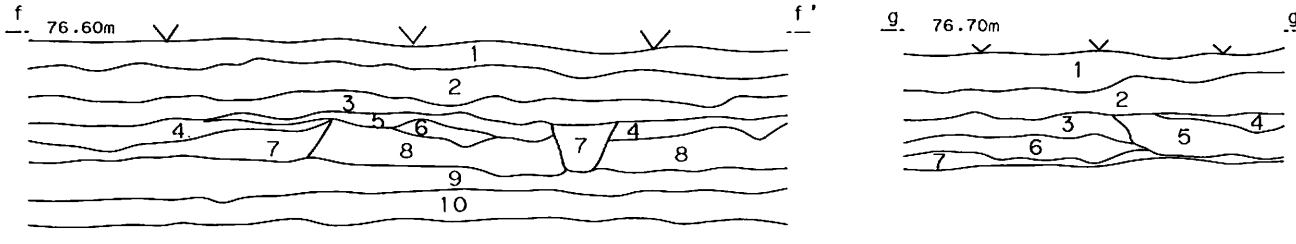


X－1南壁　土層注記
1　灰褐色土層　現耕作土
2　灰褐色土層　粘性なく・締まりあり　ソフトロームをわずかに含み小礫と軽石粒を含む
3　灰褐色土層　2層よりソフトロームが少ない　小礫と軽石粒を含む
4　灰黄褐色土層　粘性・締まりなく　ソフトロームを含みわずかに小礫を含む

X－2



X－2　土層注記
1　黒褐色土層　粘性・締まりややあり　白色軽石粒とAs-B軽石を含む
2　黒褐色土層　粘性・締まりなく　中央に細砂と礫をラミナ状に含む
3　にぶい赤褐色砂礫層　φ5～20mmの礫をラミナ状に含む　全体に鉄分の凝縮が見られ酸化している



水田からロームへの移行部・南壁断面　土層注記
1　灰褐色土層　現耕作土
2　灰褐色土層　粘性・締まりややあり　軽石粒と小礫を含む
3　灰褐色土層　粘性なく・締まりややあり
4　As-B軽石層　黒色土を含む
5　黄褐色土層　As-B軽石と3層、軽石粒を含む
6　黄褐色土層　As-B軽石を多く含み黒色土をわずかに含む
7　黒褐色土層　As-B軽石と白色軽石粒をわずかに含む
8　暗褐色土層　白色軽石を多く含む
9　灰褐色土層　白色軽石とわずかに小礫を含む
10　にぶい黄褐色粘質土層　軽石粒をわずかに含む　水性ロームを含む

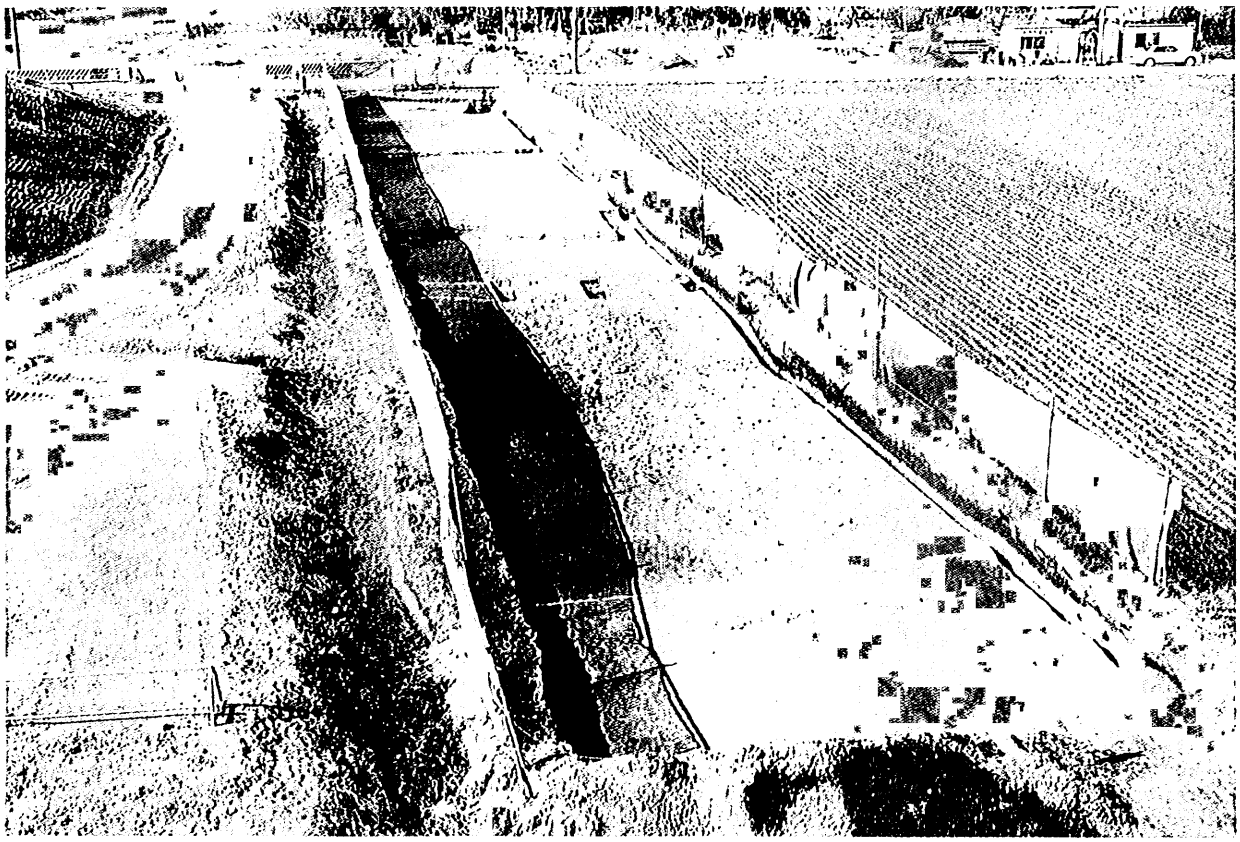
水田からロームへの移行部・北壁断面　土層注記
1　灰褐色土層　現耕作土
2　灰褐色土層　粘性・締まりややあり　軽石粒と小礫を含む
3　黒褐色土層　粘性・締まりややあり　As-B軽石と白色軽石粒と黒色土をわずかに含む
4　褐色土層　粘性・締まりなく　2層とAs-B軽石を含む
5　黒褐色土層　As-B軽石と白色軽石粒と黒色土をわずかに含む
6　にぶい黄褐色土層　粘性・締まりなく　ソフトロームと白色軽石粒を含む
7　にぶい黄褐色土層　ソフトローム層

0　1/40　2m

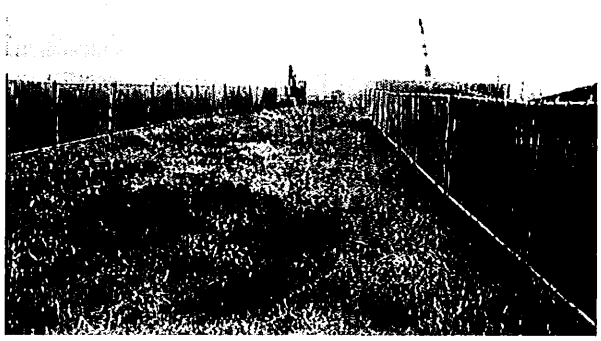
第14図　X-1・X-2、水田からロームへの移行部断面実測図

写　真　図　版

新井大田関II遺跡　1～3
萩　原　III　遺　跡　4～6



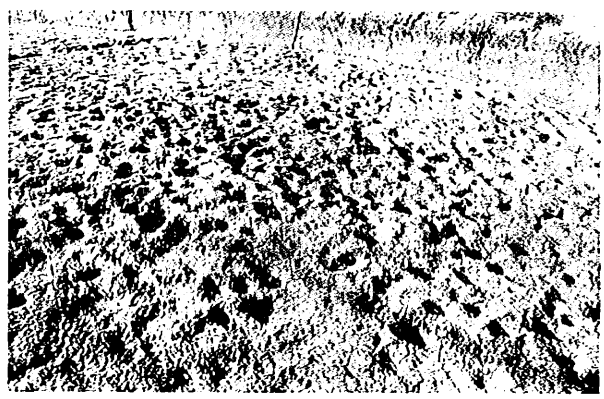
調査区全景（東より）



調査前全景（西より）

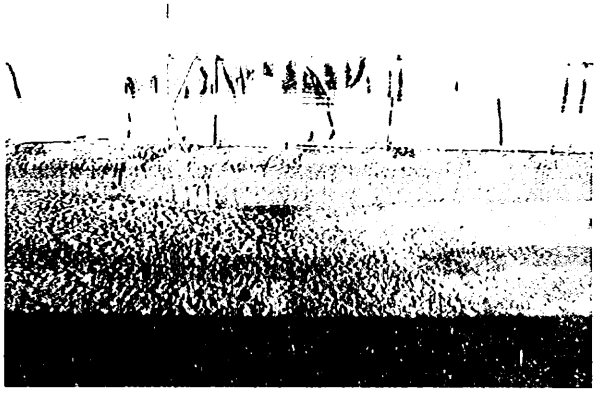
As－B 軽石堆積状況（南より）

圃場整備工事の機械痕（南より）

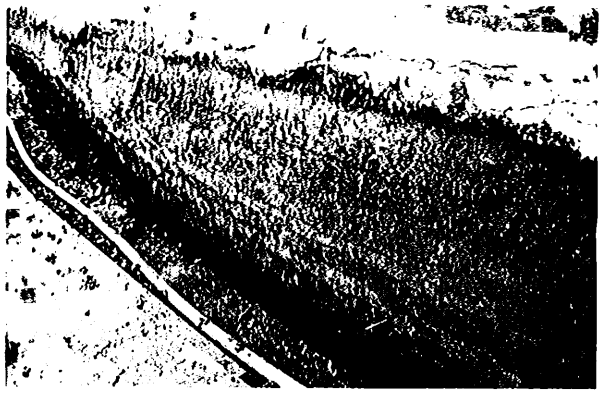


As－B 軽石層精査後耕土面

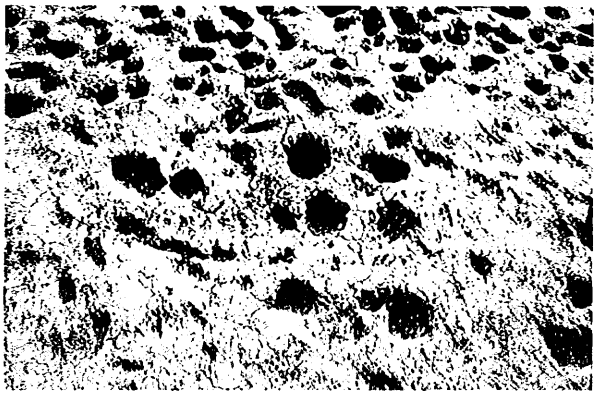
図版 2



低地部全景（南より）



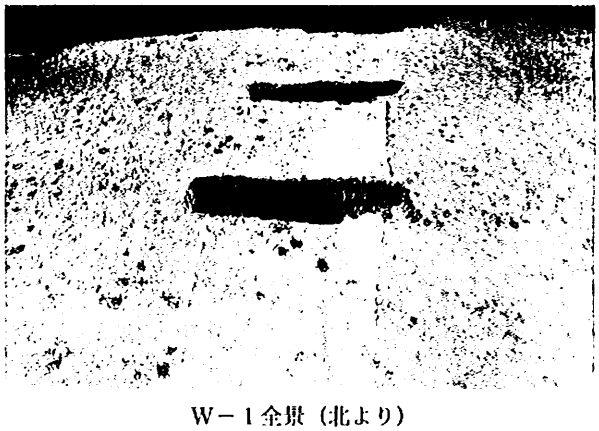
低地部南壁セクション



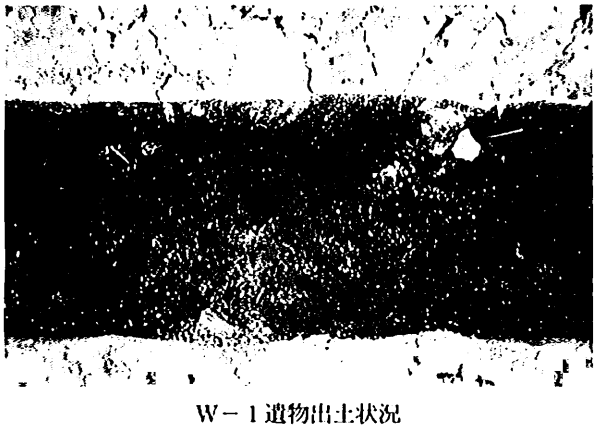
馬の踏跡検出状況

人の足跡検出状況

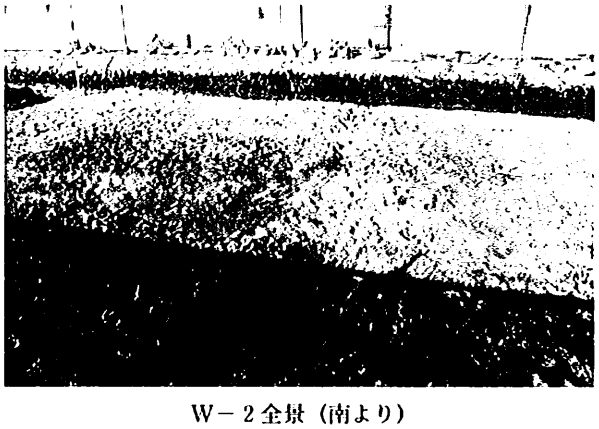
As－B 軽石下耕土面遺物出土状況



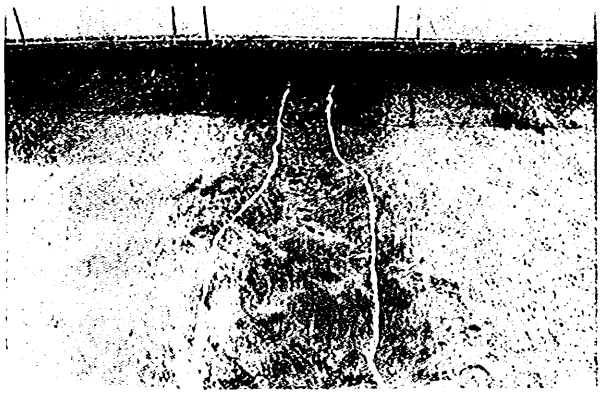
W－1 全景（北より）



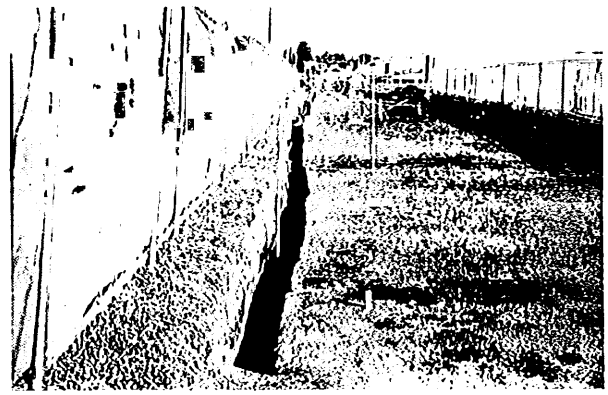
W－1 遺物出土状況



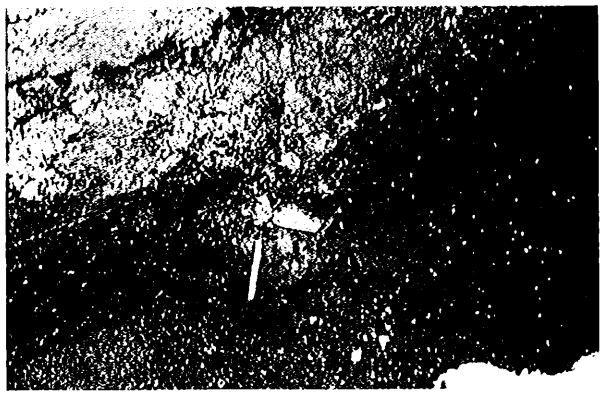
W－2 全景（南より）



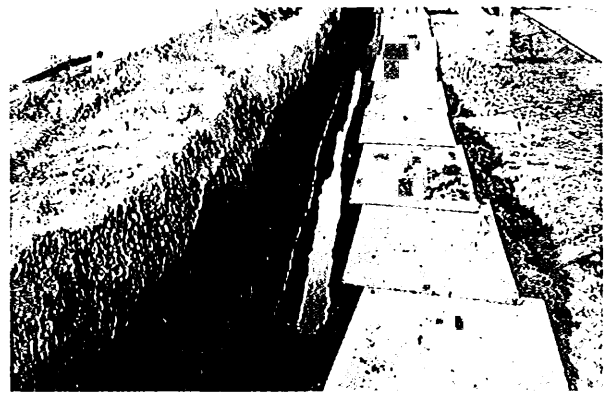
W－3全景（北より）



遺構確認トレンチ全景（西より）

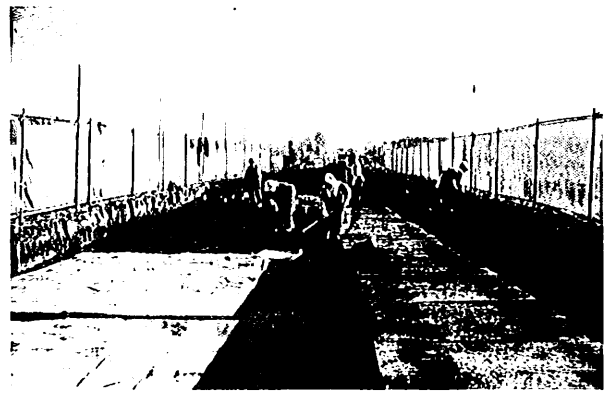


遺構確認トレンチ内遺物出土状況

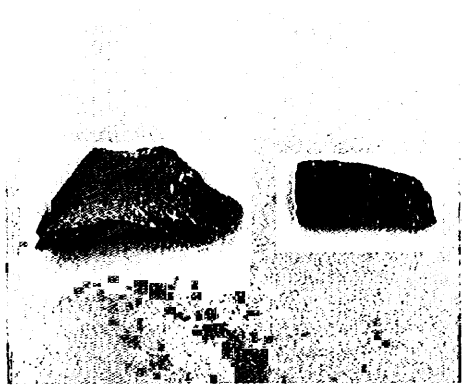


遺構確認トレンチ内湧水状況（東より）

調査区積雪状況（東より）

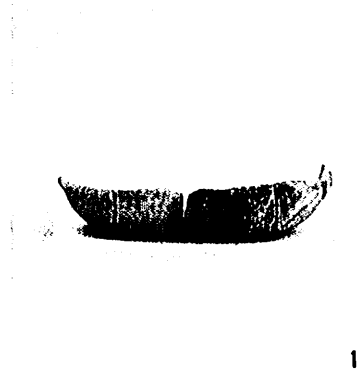


作業風景



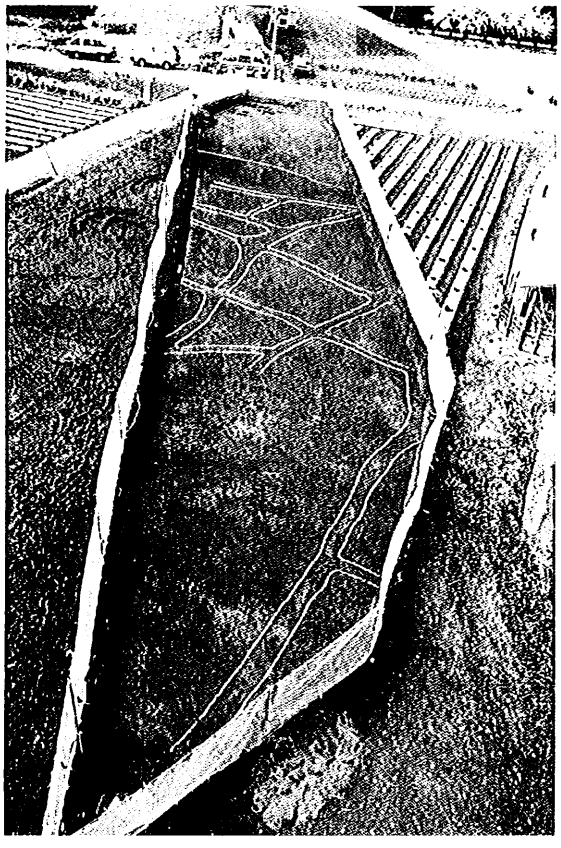
As－B軽石下耕土面出土遺物

W－1出土遺物

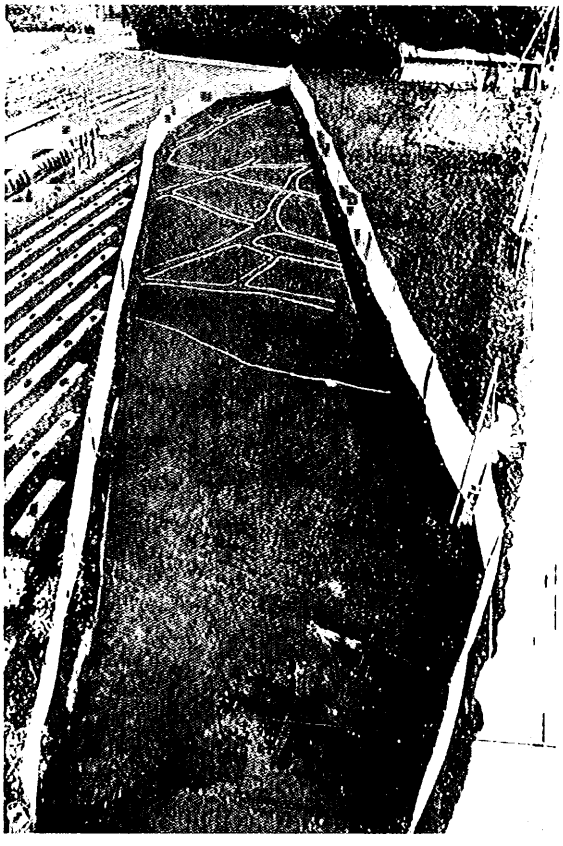


D－16グリッド内出土遺物

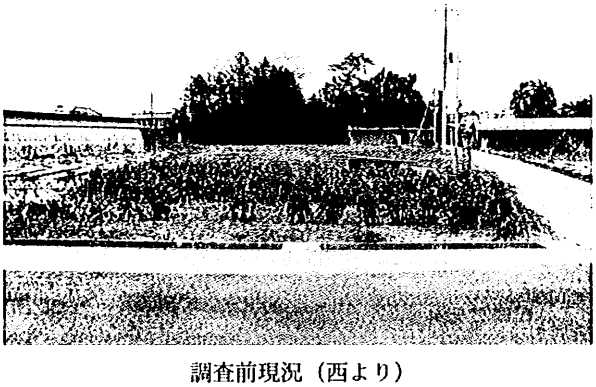
図版 4



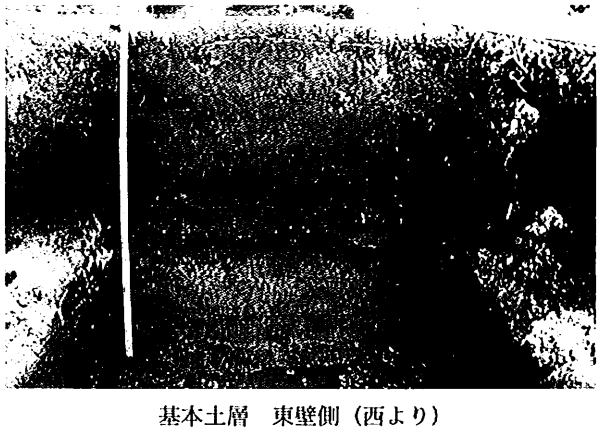
調査区全景（東より）



調査区全景（西より）



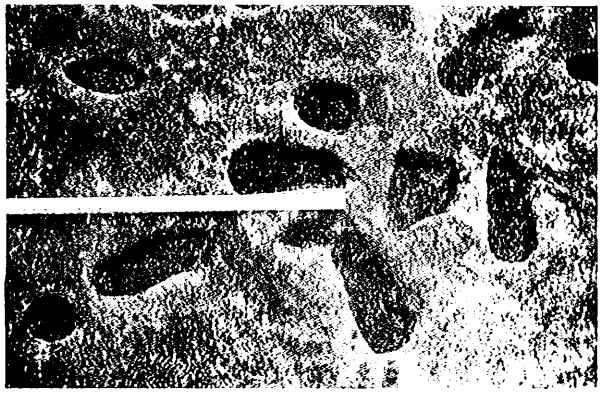
調査前現況（西より）



基本土層　東壁側（西より）

As－B 軽石下水田址全景（東より）

As－B 軽石下水田址全景（西より）

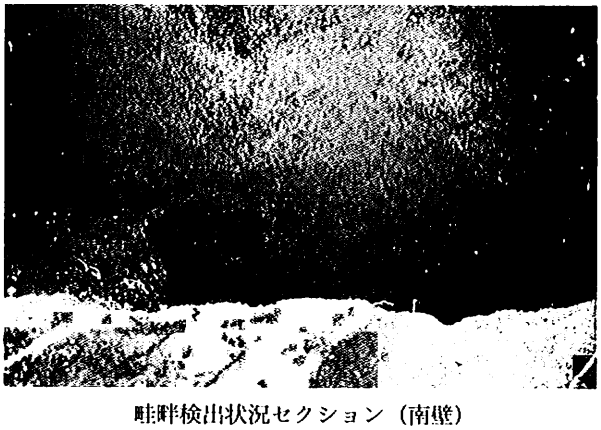


人の足跡検出状況

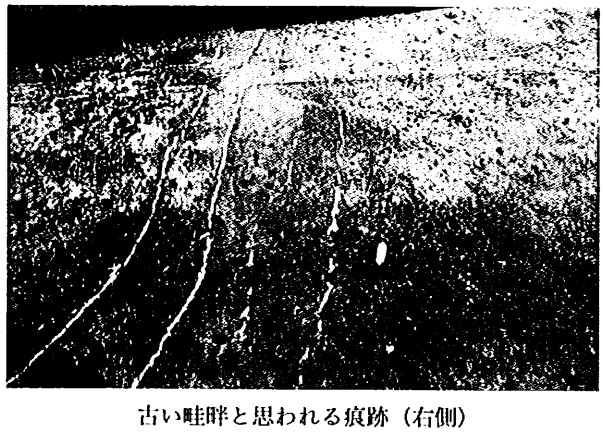
馬の踏跡検出状況

As－B 軽石下水田面遺物出土状況

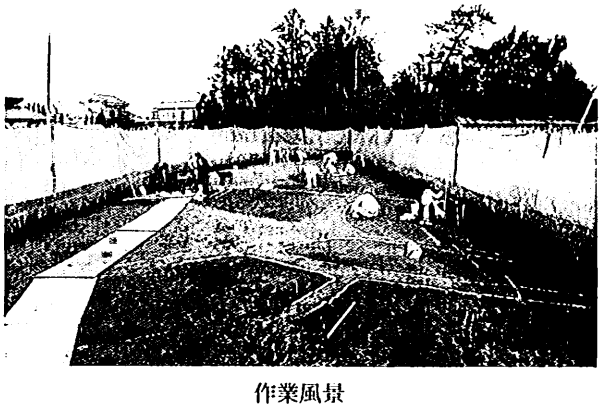
畦畔検出状況セクション（南壁）



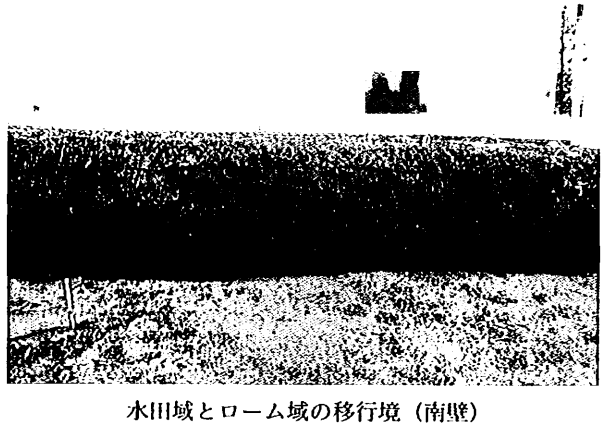
畦畔検出状況セクション（南壁）



古い畦畔と思われる痕跡（右側）

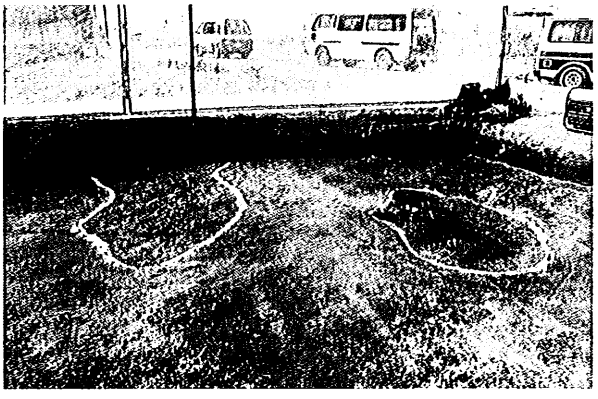


作業風景

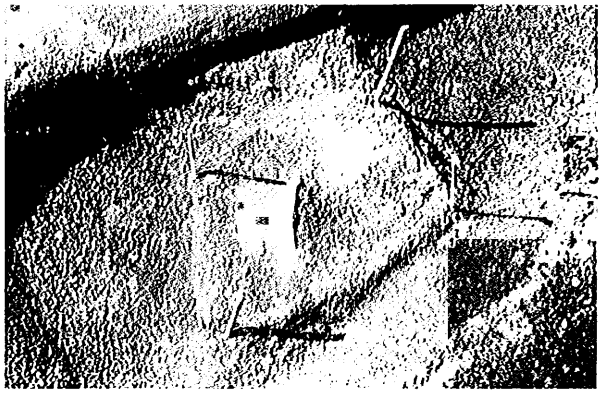


水田域とローム域の移行境（南壁）

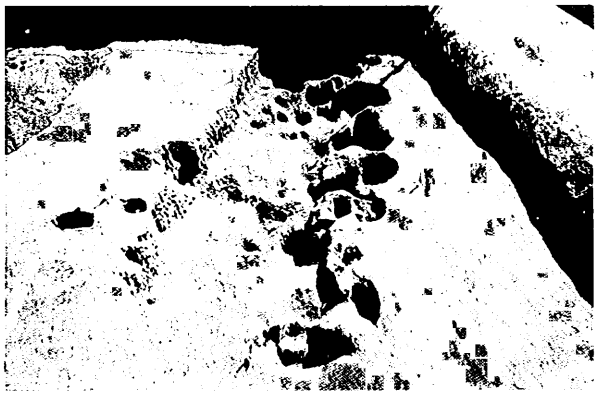
図版 6



X－1・2範囲全景（北より）



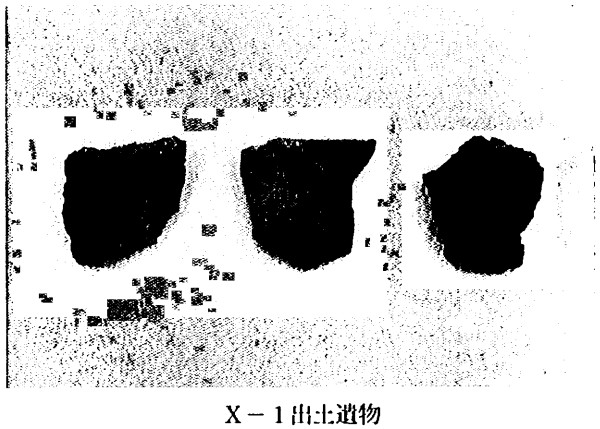
X－2遺物出土状況



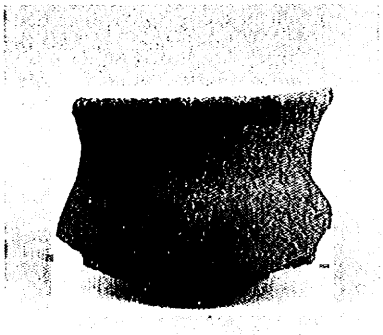
X－1完掘状況（北より）

X－2完掘状況（北より）

遺構確認トレンチ全景

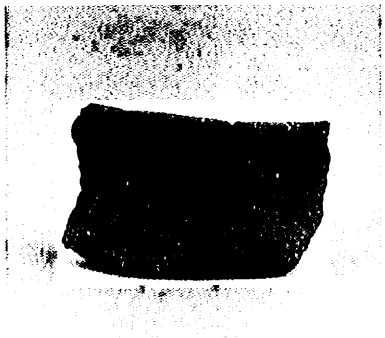


X－1出土遺物



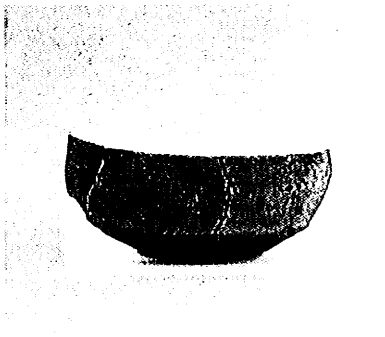
2

X－2出土遺物



3

X－2出土遺物



4

X－2出土遺物

抄　　録

フリガナ	アライオオタゼキニイセキ・ハギワラサンイセキ
書名	新井大田関II遺跡・萩原III遺跡
副書名	北関東自動車道側道道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	スナガ環境測設株式会社　荻野博巳
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0007　群馬県前橋市上泉町664番地の4
発行年月日	西暦1998年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
アライオオタゼキニイセキ 新井大田関II遺跡	マエバシシアライマチ 前橋市新井町	10201	9E 37	36°20′56″	139°10′29″	19971201 19980325	814m²	北関東自動車道側道道路改良事業
ハギワラサンイセキ 萩原III遺跡	マエバシシニノミヤマチ 前橋市二之宮町	10201	9E 41	36°20′55″	139°10′17″	19980318 19980325	600m²	〃

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
新井大田関II遺跡	溝跡	古墳時代	溝跡　1条	須恵器、土師器片数点
〃	As-B軽石下の水田耕土面	平安時代	低地部分、人・動物の足跡	須恵器、土師器片数点
〃	溝跡	平安時代	溝跡　1条	なし
〃	溝跡	近世	溝跡　1条	なし
萩原III遺跡	水田址	平安時代	水田址　13枚	土師器片数点
〃	不明	時期不明	遺物分布範囲2か所	土師器甕片・坏片など

新井大田関II遺跡
萩原III遺跡

1998年　3月20日　印刷
1998年　3月25日　発行
発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664番地の4
編集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1